

学 習 指 導 研 究 会  
第18回全国バス学習研究集会

# 分科会提案発表資料

研 究 主 題

子ども同士が支え合い高まり合う  
学習集団を作るにはどう指導したらよいか

日 時 昭和58年10月7日(金)・8日(土)

会 場 新潟県五泉市立五泉南小学校

主 催 五 泉 市 教 育 委 員 会  
五 泉 市 立 五 泉 南 小 学 校  
全 国 バ ス 学 習 研 究 会

# 目 次

## 第1分科会 国 語

◦読みとる力、聞きとる力を伸ばすには、相互作用をどのようにさせればよいか。

—物語文（「とびこめ」光村図書出版4年上）の読解指導を通して—

愛知県春日井市立高座小学校

吉 田 幸 彦

◦読みとる力、聞きとる力を伸ばすには、相互作用をどのようにさせればよいか。

—「読み」の中に、多彩な表現活動を—

兵庫県姫路市立峰相小学校

松 尾 佳 信

◦入門期のバズ学習

徳島県徳島市立波野小学校

細 川 文 男

## 第2分科会 社 会

◦自主的に協調して課題を追求する子どもに育てるには、どのようにすればよいか。

—課題づくりからの出発—

兵庫県加西市立北条小学校

芝 明

◦自主的に協調して課題を追求する子どもを求めて。

新潟県新潟市立南万代小学校

渡 辺 武 志

## 第3分科会 算 数

◦子どもの力が生きるバズ学習

—自己評価を促す学習指導のあり方—

滋賀県神崎郡五個荘町立五個荘小学校

高 村 博

◦「個の問いかけに応え磨き合う学習集団づくり」

思考を深める相互作用

個人思考と集団思考 — 人間関係を高めつつ

広島県豊田郡豊町立久比小学校

宮 地 キ 又 子

。筋道を立てて考え、処理する力と態度を育てるにはどうしたらよいか。

新潟県北蒲原郡安田町立保田小学校

中 野 均

## 第7分科会 学級経営

。地域課題をふまえた指導のあり方（支え合う集団づくり）

広島県豊田郡豊浜町立豊浜中学校

望 月 民 雄

。学級を学習集団に育てるには、どのような指導をすればよいか。

新潟県新潟市立関屋中学校

野 本 翼

## 第8分科会 学習指導

。学習における小集団の指導はどのようにすればよいか。

岐阜県土岐市立泉中学校

水 野 せ つ 子

。英語学習における小集団活用の側面

兵庫県姫路市立花田中学校

高 橋 正

。社会科における自主・協同学習の展開

新潟県新潟市立木戸中学校

関 根 廣 志

## 第9分科会 生徒指導

。よりよい人間関係を育成する生徒指導

愛知県春日井市立鷹来中学校

高 木 保 春

。生徒非行を生みださない指導はどうあればよいか。

一確かで豊かな自己表現力を求めて一

岩手県盛岡市立河南中学校

遠 畑 勝 人

。非行を生みださない指導はどうすればよいか。

ツッパリ生徒と柔道

一生徒に感動場面を与える柔道指導の一例一

新潟県新潟市立藤見中学校

長 沢 宗 英

# 第1分科会 国語

研究主題 読みとる力、聞きとる力を伸ばすには、相互作用をどのよう  
にさせればよいか。

—— 物語文(「とびこめ」光村図書出版 4年上)の  
読解指導を通して ——

愛知県春日井市立高座小学校 吉田幸秀

## 要旨

わたしは、物語文の読解指導を進めるとき、いつももの足りなさを感じていた。それは、あらすじをつかむ、段落に分け文章の構造を知る、句語意を調べるなどといった学習は、それなりになされていくのだが、主人公(登場人物)の行動を追い、心情の変化をつかみ、主題に迫るとき、少数の児童の考え、教師の解説で終わってしまうことが多かったからです。

物語文の読解では、「あらすじ、段落、句語意」も大切であろうが、「主人公(登場人物)の行動を追い、心情をつかむこと、作品の主題に迫ること」がねらいであると考え、そのねらいを達成する段階で、少数の児童の考えや教師の解説でまとめられ、一人ひとりの考えが十分に述べられない——一人ひとりが十分に自分の考えをもてない——状態では、不本意な指導の結果であるといわなければならない。

そこで、話し合い活動を中心として、大切に考えるバス学習を生かすことで、わたしが意図する物語文の読解指導が進められると考え、相互作用をどう生かしていこうかと指導を試みてきた。

1. 課題の設定を第1次感想に求めた。

第1次感想には、物語の印象に残ったことなども記述させるが、主人公(登場人物)の行動、心情などで疑問に思ったことをぜひ記述するようにした。そして、その記述された印象、疑問を課題として設定した。

2. 学習計画は、児童の関心の高い(多くの児童が印象、疑問としてあげていた)ものから取り上げて立てた。

設定された課題を、題材の目標、時間数、児童の実態、課題の広さ深さなどを考慮して学習計画を立てるが、いつも、文章の流れに従って、第1段落から順に学習していくとは限らない。児童の関心、要求を重視して、教材を組み変えた。

3. 授業の展開を「さぐる」(導入)——「みつける」(課題の設定、目標指示)——「とく」(展開)——「まとめる」(整理)——「ふかめる」(発展)とした。

前時の復習等(さぐる)から、本時の学習課題が発見、確認(みつける)される。その課題解決のため、重点読み、確認読みがされて、自分の考えがメモされる。班学習により、自分の考えの発表、友だちの考えとの比較で、自分の考えが広め、深められる。それが、全体の場に広げられ、課題が解決(とく)される。この班学習、全体学習の場で相互作用が生かされ、活用される。

板書を参考に、自分のノートが作成され、本時の学習が確認(まとめる)される。本時の学習を発展(ふかめる)させることにより、次の疑問、課題が生まれてくる。

4. 学習形態を、ひとり学習(個別学習)、なかま学習(班学習)、みんな学習(全体学習)と名づけ、有効な形態で学習させた。
5. 板書のチョークの色の工夫、ノートの工夫をした。

## 研究内容

物語文の読解指導を「とびこめ」(光村図書出版 4年上)の指導を例としながら、試みてきたことを述べてみたい。

### 1. 題材の目標と趣旨

#### (1) 認知的目標

- 情景を思い浮かべながら、人物の行動を的確に読みとり、人物像をとらえることができるようにする。
- 場面の状況を表す語句や文末のはたらきについて考えることができるようにする。

#### (2) 態度的目標

- 人物や主題について感想をもち、自分の考えをはっきりさせて、感想文を書こうとする。
- 自分の考えを述べ、友だちの考えを聞くことで、読みを深めようとする。

#### (3) 趣旨

- おだやかな船旅の甲板上に場面を設定し、おどけたさをむきになって追い、危機に陥った少年と、それを即座の決断によって救った父親の姿を、外から映画のカメラで追うように描きだしている。

- 場面の状況や登場人物のすべてを客観描写によって叙述しているため、人物の心理や主題をつかむ手がかりは、言動や情景の描写の中にしかない。
- 場面の状況や登場人物の動きを読みとり、船長や少年の人柄をとらえることが大切であるが、感想を十分に話し合い、深めさせたい。

## 2. 学習計画 (9時間完了)

時	学習課題	学習活動
1	○ 全文を読み、第1次の感想を書こう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「とびこめ」から想像されることを話し合う。(みんな)</li> <li>○ 全文通読する。(みんな・ひとり)</li> <li>○ 第1次感想を書く。(ひとり)</li> <li>○ 感想を話し合う。(なかま)</li> </ul>
2 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1次感想から、4課題を設定する。</li> <li>① 父親である船長は、どうして、自分のむすこに「うつぞ」と鉄ぼうを向けたのだろうか。</li> <li>② 少年は、どうして、そんな危険なマストに登ってしまったのだろうか。</li> <li>③ 航海のようすは、どんなだったろう。</li> <li>④ むすこが助かったのに、船長は、どうして、うめきだしたのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題に合った段落を読む。(なかま、ひとり)</li> <li>○ 読みとった感想をノートにメモする。(ひとり) ※課題追求を重点に。</li> <li>○ メモをもとに感想を話し合い、考えを比較することにより、読みを深める。(なかま)</li> <li>○ 班学習の話し合いを全体の場に広げ、班学習では十分でなかったことなどを解決しようとする。(みんな)</li> <li>○ 本時の学習の場面を読む。(みんな)</li> </ul>
6	○ 4つの場面に分けよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全文通読をする。(ひとり)</li> <li>○ 4つの場面に分ける。(ひとり・なかま)</li> <li>○ 4つの場面を確認し、登場人物の行動をつかむ。(みんな)</li> </ul>
7 8	○ 感想文を書こう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えをはっきりさせて、感想文を書く。(ひとり)</li> <li>○ 感想文を発表する。(みんな)</li> </ul>

9	○ 漢字・語句を調べよう。	○ 漢字・語句の学習をする。 (みんな、ひとり)
---	---------------	-----------------------------

→ ( ) は、学習形態

### 3 第1次感想と課題の設定

第1次感想を書かせる。第1次感想は、長文である必要はなく、単なる印象、感想より、自分が疑問に思ったと、学習したいことを書かせるようにさせる。この第1次感想を班学習で発表させ合う。友だちの感想を聞くことにより、自分が気づけなかった印象や疑問、気づきいろいろな読み方に気づくようである。

第1次感想の書かれたノートを集め、児童の印象に残ったこと、疑問に思ったことを分析し、課題を設定する。

#### (1) 第1次感想の主なものは、

- 父親である船長が、自分のむすこに鉄ぼうを向けたのかわからない。
- ほんとうに鉄ぼうがあたってしまったら、たいへんだ。
- むすこが助かったのに、船長は、どうしてうめきだしたのだろう。むすこのところへ行けばいいのに
- 少年はマストに登っていった。ほくならこわくて登れない。
- 少年はどうしてぼうしのごとくにむきになるのだろう。ぼうしなんか、また買えばよい。
- さるが、少年をからかっているのがおもしろい。
- 船員たちはわらってはかりくないで、さるをつかまえてやればいいのに。

▷ 当然のことではあろうが、児童の目はクライマックスの場面に向けられる。そして、これをもとに学習課題を設定し——学習課題は、学習計画に示した4課題とした。——学習計画を立てるので、児童の関心も高く、活発な学習が進められる。

#### (2) 第1次感想のノートは、

次の符号で朱を入れる。

- ○○○○ よい(おもしろい)考えなので、みんなに発表しよう。
- ~~~~~ 課題として、みんなで考えよう。
- ———? 本をよく読んだり、友だちの考えを参考にして、もういち度考えてみよう。

#### (3) 一人ひとりの第1次感想は、

座席表に記録し、次時以降に役立てる。一人ひとりの感想を把握  
して、話し合いを活発にさせることができる。

#### 4. 板書のくふう、ノートのかふう

板書は、話し合いの場面で、児童の発表内容を書きとめておくこと  
により、どのような話し合いがなされたか確認するのに重要な意味を  
持つ。そこで板書するときのチョークの色について、次のような約  
そくをした。

- 白チョーク—— 板書と同時に、ノートに書き写す。
- 黄チョーク—— まとめのときに書き写す。
- 赤チョーク—— 重要なこと。
- 青チョーク—— 参考メモ、必要なら書き写す。

これと合わせて、ノートを上下2段に分けさせ、上の段は、板書  
を書き写すなどして書く段とし、下の段は、自分の考えや、自分で調べ  
たことを書く段とした。

# 第1分科会 国 語

## 研究主題

読みとる力、聞きとる力を伸ばすには、相互作用をどのようにさせれば  
よいか

■ 「読み」の中に 多彩な表現活動を ■

兵庫県 姫路市立峰相小学校 松尾 佳信

### 1. 趣 旨

研究主題にアプローチしていくために、副題にも掲げている通り「読みの指導の中に多彩な表現活動」を取り入れた。その理由は下記のとおりである。

#### (1) 児童の実態から

- 言語表現につまづき —— 文・文章を書くことがきらい。書こうと思っても書くことがわからない。発表しにくい。
- 読みとりにつまづき —— お話がうまく読めない。読書がきらい。言葉の意味がわからない。
- 楽しい学習活動への願い —— 絵にかきたい。お話の続きが書きたい。物語を劇にしてみたい。

#### (2) 指導要領改訂の基本方針から (昭53 改訂)

- 言語の教育としての立場を一層明確にする
- 表現力を高めるようにする

#### (3) バス学習のねらいから (学力と人間関係、個人的学習と集団的学習)

- 生き生きと楽しく学習していく過程(指導過程)・集団をつくる
- 全員を授業に参加させ、落ちこぼしをつくらない

学習過程の中に多彩な表現活動を取り入れることにより、「より確かな読みとりができる子」、「表現したことを出し合う中で、よく聞きとることができる子」を育てていくことを試みようとしたわけである。

## 2. 研究の内容

(1) どのような表現活動を取り入れるか

- 書きことば —— 感想文、会話化（リア化）、行間をうめる、続き話、手紙
- 話しことば —— 発表（特に書いたことを）、表現読み、朗読
- 動作 —— 身ぶり、劇化
- 絵や図表 —— 想像した絵、心情曲線

(2) 指導過程のどこに表現活動を取り入れるか

(3) 表現活動をもとにして 相互作用をどのようにさせるか

## 3. 実践例

付1、付2に示している「かさこ地ぞう」（光村2年）、「石うすの歌」（光村6年）の2例で、実践の一端を発表したい。

## 4. 考察

本稿は、確かな読み力をつけるために、多様な表現活動を取り入れ、それを出し合う相互作用の中で、聞きとる力をも伸ばそうとした試みである。

これまで、ややもすると教師中心の一問一答式に落ち入りやすかった指導、話し合いばかりに終始しかつた指導。そのためにできる子中心に変わった授業。このような反省から、今回の実践は、次のような見直しを変えつつある。

- 興味を持って、意欲的に学習に取り組むようになった
- 表現しなければならぬで、よく考えて読むようになった
- 友だちの話を聞かなければ次の表現活動ができないという場を設定したので、よく聞くようになった。また、多面的な考え方ができた。

反面、時間がかり過ぎるという問題がある。多様な表現活動を取り入れるためには、十分な時間を保証する必要があるからである。

今後、表現活動を精選しながら、多くの実践を積み重ね、効果が十分上がるように精進していきたい。



○ 本時の目標 (第2次第3時)

うちに帰って、はあさまにあいさつをするじいさまの気持ちを読みとらせる。

○ 展 開

児童の活動	指導上の留意点
1. 前時の学習を想起し、本時の学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ うちに帰ったじいさまが、どんなあいさつを、どんな言い方をしたのか、考えるということをはっきりさせる。</li> </ul>
2. じいさまになって、はあさまにあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ じいさまは、はあさまにどんなあいさつをしたかということ、まず最初に、とらえさせる。</li> </ul>
<p>「はあさま、はあさま、今帰った。」</p> <pre>       /      \      /        \     『しんぼりと』 『はずんで』   </pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童をじいさまの立場に立たせて、簡単な劇化をさせる。</li> <li>・ 「どんな気持ちで言ったの。」と発問し、『しんぼりと』と『はずんで』の2つの気持ちをクロスアップしたい。</li> </ul>
3. どうして、そのような気持ちになったのかを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かさが売れずに、がっかりして帰って行くじいさまを前時に学習しているだけに、児童のほとんどは、かさを売りに出かける場面、かさが売れなかった場面のじいさまの発言を根拠にして、『しんぼりと』を強調すると思われる。そこで、第1次第3時に学習した「これでええ、これでええ、それでやと安心して帰りました。」という文を提示し、児童の思考をゆさぶっていきたい。</li> </ul>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>「帰りは、もちこどさり買、てくるで、人にこいほもしよてくるでう。」</p> <p>「……ああ、もちこもたんで帰れば、はあさまは、どんなにかかりするのしけん。」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・ 5人のじょうぶに、かさをかぶせた。</p> <p>・ つきはきの手ぬぐいをかぶせると「これでええ、これでええ」</p> <p>・ そこで、やと安心してうちに帰りました。</p> </div> </div>	
4. はあさまは、どんな気持ちでじいさまの話聞いたか、考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ じいさまから はあさまへと児童の読みの視点をかえて、次時の学習課題とする。</li> </ul>



## 本時の学習(第2次第4時)

- 目標 千枝子やおはあさんの気持ちをふき出しに(セリフ化)したり、役割読みをしたり等の表現活動を通して、原爆の被害を受けた千枝子たちの心情を読みとらせる。

## ○ 展開

児童の活動	指導上の留意点
1. 学習課題をつかむ。	○ 前時の学習を想起させ、本時の学習課題をつかませる。
<p>(瑞枝の両親が原爆でなくなり、千枝子たちは、どんな気持ちになったろう)</p> <p>2. 第3章後半を読んで、千枝子の気持ちを話し合う。</p> <p>(「二人を仲よくしましょうね。」 「おはあさん、わたしがひくわ。」)</p>	○ 予習課題として、千枝子の気持ちがわるいところに線を引かせてきているのを発表させる。それを「千枝子にならなつりて読む」活動を通して、千枝子が二人を慰めていることに気づかせる。
<p>3. 瑞枝やおはあさんを慰めようとした千枝子の心の中を考える。</p> <p>○ 慰めようとしたわけ</p> <p>( 瑞枝 — どうおはあさん おはあさん — うすの気持ちが すわったま。</p> <p>○ 千枝子の気持ちをセリフ化する</p>	○ 「千枝子は、どうしてまた慰めようという気になったのだろう」と発問し、瑞枝やおはあさんの気持ちを考えさせていく。 二人の気持ちを対比しながら、瑞枝が悲しみから立ち上がろうとしている点をつかませたい。
<p>4. うすを回す千枝子や瑞枝の姿を見つめているおはあさんの気持ちを話し合う。</p> <p>○ ふき出しにする</p>	○ おはあさんの気持ちをふき出しに書かせる。 それをトランプ・アップでとり、OHPで写して視覚に訴えながら、おはあさんの喜びの気持ちを読みとらせていきたい。
5. 次時の学習課題をつかむ。	○ 「石うすが、これほどどのような歌を歌ってきたか」と問いかけ、次時の学習へつなぐ。

研究主題 入門期のバス学習

徳島県徳島市立波野小学校 細川 文男

◎ バス学習方式を取り上げた理由

① 明治以来の一せい指導方式に対する反省

- 一せい指導は
- 聞かせる教育，教師中心の教育
  - 個人，個性，能力を考えない十ばひとからの教育
  - 学級の全員が学習に参加していない
  - 個人中心，発言力のある子中心の教育

これが  
バス学習

- ひとりひとりを生かす教育
- 学習に全員が参加できる教育
- 全員が発言できる教育
- 人と人との関係（集団）の中で個人を伸ばす教育
- 理解と態度（人間形成）が一元化できる教育

であるとの理解に立って，本年4月から取り組んだ。実践はまだまだ幼稚であるが，理想を高くかけて，とにかく実践，とにかく一歩でも前進していきたいというのが今の気持ちです。

◎ バス学習方式は絶対でないが・・・

学習指導方式には，いろいろな形式がある。しかし絶対というものはない。特に学校のおかれた環境，家庭環境，子どもの能力・個性など学習指導に強い影響力をもつ要素は多い。

だから，これひとつが絶対とはいえない。機に臨んで学習方式も変えていかなければならないというのが私の持論である。ただあれもこれもとウサギのフンのように，ちょい ちょいとかえていくことは慎まなければならないのは いうまでもない。

棋聖といわれる升田幸三さんは，自分が将棋の世界でここまでこれ

たのは「新手一生」つまり「何かを追求していくとき常に新しい手を考えたからである。」といわれたが、まさに教育も新手一生で、常に創造し、新しいやり方で、効果のある方法を考え出していかねばならない。

## ◎バズ学習の基本的指導

### ○土を耕して種子をまけ

ことわざに「土を耕して種子をまけ」という言葉がある。種子をまく前に土を耕す。よい実を育てる前によい葉を育てる。教育も同じことで入門期（幼。低）の学習の方向づけ、基本的な行動様式がしっかりしつけられていなければ、学習の効果はあがらない。

例えば 話すこと（話し方）、聞くこと（聞き方）、言葉使い、手の上げ方、相手を認めあう態度など、どれひとつとっても、入門期にぜひ徹底して、継続的にしつけておかなければならない。

特に話しあい指導の原点であるといわれるように、話しあいのない学習はない。子どもと子どもの横の関係（人間関係）や考え方、見方などは話しあうことで理解できる。

ただ、入学当初（低学年）は語いが乏しく、表現がうまくできないためのつまずきは数多くある。そんな時、教師は暖かい眼で見守り、待つ心が大切で、先を急ぐあまり、子どもを無視したり、発言を拒否したりしないよう息の永い教育をしなければならぬと思う。

「花は咲くべきときがきたら咲き、実るべきときがきたら実る」  
子どもの可能性を信じ、辛抱強く、じっと待つことが低学年、特に入門期の指導の要点である。

### ○入学当初（入学直後からの指導）

ひとりひとりの子どもに発言の機会を与える。

(例) きょうは どの道を通ってきたの。

学校へ来る途中、耳に聞こえたもの、見たものは

- ひとつの答えよりつみ重ねて2つ、3つ言える。
- 話しの途中、つなぎ言葉（そして、それから、そこで）など
- 大きい声でおしまいまでハッキリ言えたら、みんなで拍手する。（先生も励ましと賞さんの言葉）
- 席別に児童名をプリントしておき、各児の発言のひん度を書いていく。
- だれでもが答えられる発問をする。

視  
点

- 言葉がはっきりしているか。（幼児語、方言）
- 大きい声で話せたか。
- もじもじしないで話せたか。
- 要点がはっきりしているか。

#### ○組織編成

- 一応、ひとりひとりが発言できるようになった時点（6～7月）で、並んでいる子同志（ペア）で話しあう。

例えば「はじめにボクが言いますよ。」～と言って発言する。

「今度はわたしが言いますよ。」～

この時、ふたりが手を握りあっていると話しの仕方が確かになる。

- ペアバズと同時に仲よしバズをはじめる。  
教科により、仲良しが並んで話しあいさせる。

#### ○バズの位置づけ

- バズ方式を、教育のあらゆる分野で活用する。

どの教科でも、遊びの中でも自由平等に話しあいさせることが、バズ方式を生かす道である。

#### ○バズメンバーと進行役

( 3 )

- ・話しあう仲間と進行役（バス長とも言う）は、全く同格として教科により、時によって、だれでもが進行役を務めることができるよう時々交替させる。

#### ○発言の基本型

##### ア 進行役の発言の基本型

- ・～でよろしいか。（確認）
- ・そうですね。（肯定）
- ・つけたすことはありませんか。（疑問）
- ・もう一度考えてみて下さい。（再確認）

##### イ メンバー発言の基本型

- ・～と思います。そのわけは。。。 (推 量)
- ・〇〇さんと同じです。そのわけは。。。 (肯 定)
- ・〇〇さんの意見につけたします。（補 足）
- ・～です。（断 定）
- ・今の意見をまとめてみますと（要 約）

これらの発言の基本型を一度に覚えさせたり、言わそうとしてもできない。特に入学当初では「はい ～ です。」が言えたら十分である。ただ、時に応じて「こんな言い方もあるね」と小出しにして、それが、おおよそ使えるようになった時、次の発言の型を指導する。また、前の壁面に発言の基本型などを掲示しておくのも / つの方法である。

#### ○教師自身の自己変革

子どもを変えることが教育であるとするなら、まず、教師自身が変革しなければならない。問題点ばかりせん索する前にまず実践して、その中で改善や創造していく積極的姿勢こそ大切だと言わなければならない。

経験や勘だけにたよった学習指導には進歩がないし、子どもの主体性を導き出すことはできない。

◎ 5か月間の実践の中から

◎ 学級の実態

○学校の位置と規模

徳島市の中心街より南へ約1.2KM 離れ、三方を山に囲まれ、古くから開けた農業地域である。全校児童数は71名の小規模校で、児童は温厚・純真で勤労を尊び、児童相互の結びつきが強い。

○子どもの実態

1年 男子 5名, 女子 5名 計10名

略

○教育的理解度

略

1年(国語科) 単元 「おおきなかぶ」

○発問

1. **けれども** かぶは ぬけません。というのは おじいさんが どうしたけれどもでしょう。
2. **それでも** かぶは ぬけません。
3. **やっぱり** かぶは ぬけません。
4. **まだまだ** かぶは ぬけません。
5. **なかなか** かぶは ぬけません。
6. **とうとう** かぶは ぬけました。

以上のような繰り返しと場面の変化をおりませ、言葉や動作化による反応を考えた。

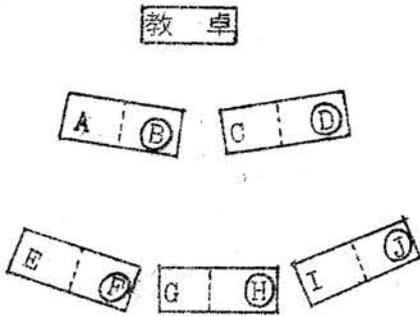
○児童の反応

この時期特有の反復と動作化のおもしろさによって、それぞれの個性を表現しながら生き生きと活動した。

特に最後の **とうとう かぶは ぬけました。**の段階では、非常な満足感があり、ホッとした表情がみられた。

○本時の発言のひん度

(例をあげると)



(男子) 発言回数 (女子) 発言回数

A --- 正	ⓑ --- 正
C --- 正	Ⓓ --- 正
E --- 正	Ⓕ --- 正
G --- 正	Ⓖ --- 正
I --- 正	Ⓙ --- 正

○バズ学習と学習意欲

・話しあう学習についてのアンケート調査結果から (児童対照)

話しあう (ペアバズ) 学習について

好き ..... 100%

きらい ..... 0%

学習意欲がおう盛となり、話すことに自信を持ち、生き生きと学習に取り組み、特に文 (センテンス) と文とのつなぎ方やまとめ方がうまくなった。

○その他の効果

(保護者の声)

・活気のある学習 / 年F 児の母

学習ぶりが、生き生きとして、全員が学習に参加しているの  
でみていても とてもはりあいがある。

・ずいぶん伸びた。 / 年C 児の母

発言している子どもの態度、言葉を見聞していると、保育所  
とは、すっかりかわって、急に成長した。

研究主題

自主的に協調して課題を追究する  
子どもに育てるには、どのよう  
にすればよいか。

課題づくりからの出発

兵庫県加西市立北条小学校 芝

明

1. はじめに

- ・本校は、昭和56年度に第16回バズ学習研究会を開催して以来「児童の相互作用を通して、ひとりひとりを生かす学習」のテーマのもとに研究を続けてきた。基本的な態度として、まず教師が「教える」意識から「育てる」意識への転換を図ってきた。そこで学習を進めるにあたっては学習の主体者である児童ひとりひとりに学習課題を明確にさせ、その課題を自分たちの力で解決していこうとする意欲・態度を育てることをねらい、授業の中では、個人学習・グループ学習を重視し、確かな考えをもって学習に取り組ませるように進めてきた。
- ・しかし、どのような学習課題をどのように解決させていくか、その方法・バズ学習の位置づけ・評価等多くの問題をかかえながら、今日に至っている。
- ・そこで本年度は、学習課題の設定・課題を解決する力を育てるため、集団での響き合い相互作用をどのようにとり入れていけばよいかにしぼって研究をしている。

2. 実践 ————— 5年 「いろいろな農産物の生産」

【1】指導のてだて

(課題づくり)

〈1〉事前調査

〈2〉同題発見の資料の提示

〈3〉意見の分類。焦点化

〈4〉学習課題の明確化——計画

以上の4点に留意し、課題づくりに取り組んできた。また同時に課題を解決する学習で、社会事象を正しく認識する能力、すなわち科学的な事実認識能力の育成をはかってきた。

(課題の解決)

〈1〉課題の確認

〈2〉課題解決の予想

〈3〉予想の分析

〈4〉確かめ

〈5〉まとめ

このように、単元を見通し、一時間一時間の授業を組織している。

【2】授業 [課題づくり] ——畜産——

1 事前調査 ほとんどの児童は、北海道における畜産(酪農)を知っていたが、肉牛の飼育については、一部の児童のみが知っていただけであった。

・畜産とは、どんなこと

牛や豚などを飼うこと ——28/43

乳牛や肉牛を飼うこと ——11/43

わからない ——4/43

・畜産の盛んな地方

北海道 ——34/43

東北地方 ——7/43

九州 ——2/43

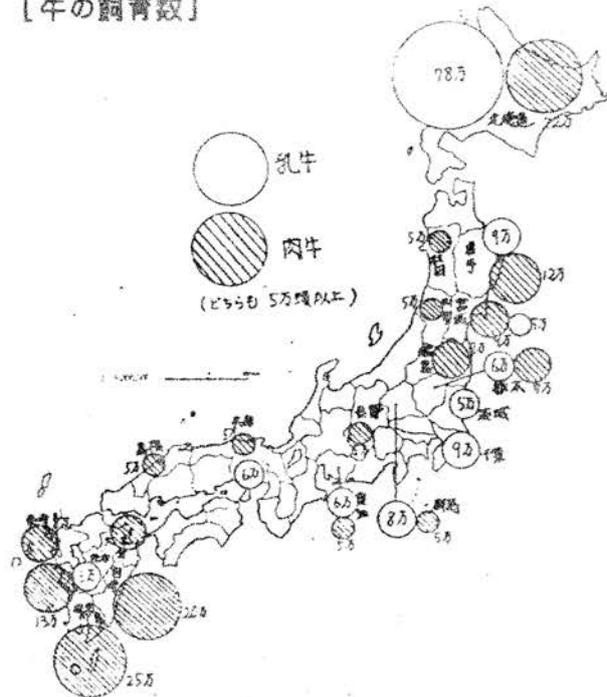
・どんな苦労や工夫があるか ——0/43

## 2 問題発見の資料の提示

### 〈教師の発問〉

この地図は、日本の畜産の盛んなところをあらわしたものです。これを見て、どんなことがわかりますか。

### 【牛の飼育数】



### 〈児童の考え〉

- 【1】北海道では乳牛の飼育が盛んだ
- 【2】九州に肉牛の飼育が盛んなところが多い
- 【3】近畿地方は少ない
- 【4】北の方に乳牛の飼育が盛んで、南の方に肉牛の飼育が盛んだ
- 【5】全国各地で飼育が盛んだ

【6】鹿児島県で肉牛の飼育が盛んだ

児童の目は、盛んなところ・そうでないところを中心に  
見ている。そして、「どうして近畿地方は少ないのか。」「  
なぜ鹿児島県のようなところに肉牛の飼育が盛んなのか。」  
など、さまざまな意識がうかがえ知れた。

- 3分類・焦点化    a……多い・少ないに注目    【3】【4】【5】  
                    b……乳牛の飼育に注目    【1】  
                    c……肉牛の飼育に注目    【2】【6】

- 4課題の明確化    児童のなかに、「どうして鹿児島県のようなところ  
で肉牛の飼育が盛んなのか。」という意識をもっている者  
がいたことと、家畜の飼育の苦勞・工夫やその土地の自然条  
件や社会的条件などを探求するうえで、鹿児島県の肉牛の飼  
育をとりあげた。

どうして鹿児島県で肉牛の飼育が盛んなのだろうか。

という課題を設定した。

[課題の解決] —————畜産—————

- ◇目標    認知的    鹿児島県では、シラス台地を利用しての肉牛の  
                    飼育が盛んであることがわかる。  
                    態度的    A飼育数の推移や食生活の変化などの資料から盛  
                    んになった理由を追究しようとする。  
                    B個人・グループで資料を吟味し、まとめよう  
                    とする。

という目標で学習に取り組ませた。以下はその取り組みを簡単にま  
とめたものである。

A. 課題確認——『どうして鹿児島県では肉牛の飼育が盛んなの  
だろう。』

B. 予想——まとめてみると、

イ。私たちが肉をたくさん食べるようになったので、た  
ぶん日本人の食肉量が増えたからだ。

ロ。暖かいからだ。

ハ。米を作るより、牛を飼うのに（土地が）適している  
からだ。

ニ。もうかるからだ。

C. 予想の分析——予想が正しいか、そうでないかをどんな資  
料から、どんなことがわかればよいか分析  
、焦点化した。——グループで——

イ'。日本人の食肉量の変化

ロ'。気温、降水量

ハ'。土地などの自然条件

ニ'。飼育による収入

児童の力で解決にあたらせた。

D. 確かめ——グループで——

イ"。資料によって、増えていることをつかんだ。

ロ"。北海道、その他全国各地に広がる飼育分布により、あまり気  
候に関係ないことをつかんだ。

ハ"。地図帳（Q.P）や教科書で「シラス台地」の様子をつかませ  
た。それと同時に児童は、むかしのシラス台地の農業の様子  
を知り、盛んになった一因を理解した。

ニ"。飼料代に大変費用がかかっていることがわかった。

E. まとめ

ひとりひとり、ノートにまとめさせ、数人に発表させた。

[N, U]

鹿児島県では、シラス台地が多いので、米ができない。だから肉牛を飼育している。

[K, N]

鹿児島県では、むかしはサツマイモを作っていたが、今はあまり作らなくなった。なぜかと言うと日本人の食生活がかわって肉を食べるようになったので、シラス台地を利用して肉牛を飼うことが盛んになった。

### 3. おわりに

- ・社会科において課題づくりは、事実を児童の目の前に示すことから始まるのではないだろうか。具体物を見せたり、資料を見せたりして児童の問題意識化をはかることで学習課題がひとりひとりのものになっていったように思われる。
- ・雑多な情報の中から必要な情報を選択しようとするれば、目的（めあて）が明確になっていなければならない。学習においても学習課題をはっきりとさせ、予想・分析・確かめ・まとめと一つの学習の流れを組織することで課題を解決することができると思う。そこで、日頃の授業をふりかえると分析（焦点化）に時間を十分とり、児童ひとりひとりに「どんなことを、何で、どのようにして確かめていけばよいか。」をつかませて、確かめの段階にはいつている。しかし、グループバズを分析・確かめの段階でよく使うので、時間がかかることが最大のなやみである。

## 社会科分科会

主題 『自主的に協調して課題を追求する子どもを求めて』

新潟市立南万代小学校  
渡辺 武志

### I 学級経営の基盤

#### 1 求める学級像

学級では、その成員一人ひとりにとって、学校が楽しくなければならぬ。楽しい学校であるために、何でも話し合え、仲よく遊べる友達がいて、先生がいることは第一の要件である。しかし、学校は、さらに高い楽しみ、成就感を求めて、みんなと励まし合い、助け合って学習がわかっていき、作業できていかなければならぬ。そのために、子どもと子ども、子どもと教師の心の交流を深め、数多い行事の中で、また教科の学習を通して、お互いにより高度なものを求めよう。

- みんな違った個性と能力をもった個人を、「認め合う、助け合う集団づくり」
  - 一人ひとりの子どもが疎外されることのない、落ちこぼれのない集団づくり
  - 仲間として連帯を強め、どの子どもも生き生きとしている集団づくり
- をめざしていきたい。

#### 2. 学習過程に小集団学習を

一人ひとりが生かされながら、意欲的に学習に立ち向かい課題を追求する全員参加の学習をめざし、小集団学習を学習過程に取り入れた。小集団学習によって、次のことを期待するからである。

- 発言や仕事の分担などの学習参加の場がより多くの子どもに与えられることにより、一斉学習では取り残され、脱落する子どもも学習に参加する基盤ができること。
- 学習を協同しながら進めることにより、成績上位者は、助力する機会が多くでき、相互の間に感情面でも好ましい関係が形成されやすいこと。
- 仲間といっしょに思考する場を設定することにより、創造的な考えを生み出すこと。

### 3. 子どもの主体化と集団的側面の重視

小集団学習を進める過程の中で、従来の一斉指導で育てられなかった、子どもの主体化、つまり、学級のすべての学習意欲を盛り上げ、学習態度をつくることが大切である。主体化とは、学習場面での自主的な主体性を盛り上げるというねらいをさしている。

- 興味を持っている。
- 目標をつかんでいる。
- 学習の仕方を身につけている。

という要素を持たせることである。

今までの授業では、子どもがわかることをねらって、授業の目標、内容、方法等の分析に終止していたが、それも授業の質を決定づけるものとしては必要と考えるが、さらに、子どもの学力を高めるためには、子どもの主体的な意欲や態度が形成されていなくては、わかる授業とはならない。また、単に、意欲や態度の形成をねらいとするだけでは効果があがらない。学級の人間関係に着目した集団的側面からも考えなければならぬ。すなわち、協同して学習に取り組むことが価値ある行為であることを、一人ひとりが自覚し、内面化されていなければ、積極的参加はない。

#### 4. 学習の効率を高めるために

##### (1) 「話す」「聞く」を大切に

学級集団を対象にした現在の学習指導では、それを成立させるものとして、「話す」「聞く」の働きはなくてはならないものである。小集団学習においても、子どもたち、一人ひとりの話し合いという相互の働きが大切である。

話し合い活動のねらいは、一人ひとりが、学級の成員とお互いにコミュニケーションする中で、思考を深め、豊かにすることにある。自分の意見や疑問を述べる中で、相手の働きかけによって思考していくことである。話し合いに参加した一人ひとりが、他の発言を受けとめ、自分の思考を深化、発展させていくことになる。このように、話し合いの効果は一人ひとりが思考のし方を学習し、個人の思考を高め、集団思考を高めていくことになるであろう。

集団学習の効率を高め、集団思考が深まることをねらい、思考活動別に話し合いの観点考えた。

学習活動において、教師の発言や他の発言、または、教材として活用される視聴覚教材の内容などを相互に聞くことが問題となる。聞く内容はさまざまであるが、その場面で聞く内容は同じである。しかし、一人ひとりのとらえ方は、子どもの能力、資質、生活経験のちがいが、著しい差異があることが多い。内容を確実に理解できる子、要点の一部だけ理解している子、問題点、疑問点までとらえている子といろいろである。

そこで、聞く態度の形成を次のように考えた。

- 相手の顔を見て聞く。
- 聞くことと話すことなどの活動のけじめをつけること。
- 内容に応じた聞き方、聞く技術の向上を促す。

これらの聞く態度の形成がなされるように、各教科の指導

の場面で訓練すると同時に、簡潔な聞き取り活動として、二人バスをしながら、相手のいうことの要点が正確に言える練習をさせた。この時、要点をメモすることも重要な作業の一つである。

#### 5. 「メモ」と「ノート」を大切に

学習を思いっただけで終わらせてはいけない。メモを活用することにより、自分の考えをはっきりさせ、書くことによって自分のあいまいな部分に気付かせる。考えることと書くことを一体のものとして、考え、書き、話し合うという一連の作業を体験し、自分の考えを深めていくのである。

一人ひとりの思考が明確にされていない状態では、小集団学習の高まりは期待できない。個人思考の時間を十分とり、メモをとらせた。

#### 6. 少数意見を大切に

小集団学習は、全体に向かって開かれているもので、それだけで完結する自閉的なものではない。小集団の中で少数であっても、全体の場では、勢いを増す可能性もある。小集団学習は、各人の考え方を画一的にそろえるのではなく、一人ひとりの多様な考え方を大事にすることを通して、自主的な思考を促し、協同を育てていくのである。

## II 社会科指導の実際

### 1. 社会科の学習と小集団学習

社会科では、子どもたちが観察力、資料活用能力、思考力などの基礎的能力を働かせることによって、社会生活についての基礎的理解を図り、「自ら考え、正しく判断できる能力を伸ばすこと」をねらっている。このねらいを達成するため

に、次のような子どもの姿が見える授業を期待している。

- 一人ひとりの子どもが提示された教材に対して、強い問題意識をもち、調べてみようとする追求活動の動きを見せること。
- 自分の経験や、観察した事実、資料を手がかりに自分なりの考えをもち、友達と意見を出し合う中で、自分の社会事象のとらえ方をより良いものにしていくこと。

このように 社会の授業において、一人ひとりの子どもが、主体的に課題に取り組み、自分なりの考えを持ち追求を深めると同時に、一人ひとりの個性的な考えが学習展開の中に生かされ、社会事象の意味がとらえられていかなければならない。小集団学習とのつながりをここに求めることができる。

## 2. 提案の視点

小集団学習は、一人ひとりの学習への参加をめざすものである。しかし、いつ、どこでも効果があるものではない。私は課題把握の段階における学習内容と小集団のかかわりととらえてみたいと考えた。6年歴史単元を中心として述べてみる。

### 1) 子どもに課題をもたせるための手だて

ア. 問題意識をもたせる教材提示の工夫すること。

小集団学習で子どもを主体化させ、教材に正対し、追求活動を深めさせるには、問題意識を高め、興味をもたせることである。教材の提示のし方を次のように考えてみた。

- ① 変化の結果から、どのように変わってきたか意識させる教材の提示。
- ② どうして、どのようにという意識をおこさせるのに効果的感銘を与えたり、驚嘆させる教材の提示。
- ③ 事象と事象が相反し、疑問をいだかせるような教材提示。
- ④ 子どもにある先入観や一方的な見方が形成されているよ

うな場合、それを打ちこわすような教材の提示。

イ、子どもが課題をもつ過程を体得させること。

子どもの興味、関心に支えられた教材が提示され、学習の対象が明確に意識されると、子どもは、自分なりの見通しをもちながら、ひたむきに追求活動に動き出す。そこで、子どもたちが、自分の考えをもとに、他とのかがわりで課題を見い出していく過程を大切にし、その方法を体得させておくことで学習の効率がよい。

提示された社会事象を、個人で  
いろいろな角度から、自分なりに分  
析させ、事実認識を深めさせるこ  
とが大切である。事実認識の中か  
ら疑問をいだかせ、課題把握につ  
ながるよう、教材の提示の工夫や  
個人思考のメモの活用を配慮する。

事実認識

(わかること

↓ 考えられること)

疑問

(ふしぎだ、

↓ どうしてこうなるのか)

課題

また、課題として、追求の視点が明確でない場合は、ねらいにせまるような資料を提示し、追求の見通しをもてる方策をとる。

課題が、いくつもでてきた場合、次の観点でまとめていく。

- ・ 省略化 — はずれている場合や不要なことははぶく。
- ・ 焦点化 — 何が焦点なのかさがす。
- ・ 深化 — さらに深めていくには、どこを考へて行つた方がいいか、ついでにいく。
- ・ 比較 関連、合体 — 異同を検討しまとめる。

### 3. 授業の実際

1) 単元名

武士の世の中Ⅱ

(略)

## 第3分科会 算数

### 研究主題

子どもの力が生きるバズ学習  
—自己評価を促す学習指導のあり方—

滋賀県神崎郡五個荘町立五個荘小学校

教諭 高村 博

#### 1. はじめに

子どもの自己評価, それは, 子どもが学習の仕方やこれから力を入れて学習すべき内容に関する情報を得たり, 今進めた学習がどうであったかという情報を得て, 習熟したり, 修正したりして, 一層学習意欲を燃やし, 勉強に励むという性質のものである。

それを促す教師の構之としては, 子ども自らが課題にとりくみ, ねらいを明確にし, 自分の考之を作り, 確かめ, 修正していくような学習過程が展開されるように, 学習組織を考之ていかなければならない。教材の選び方, 内容のうけとめ方は勿論, 課題提示の仕方, としてまた学習過程において, 子どもの考之のとり上げ方など, そのことが教師自身の大切な役割でもあり, 又, 教師自身の自己評価でもある。

#### 2. 自己評価を促すための「指導」と「評価」

##### (1). 子どもの育ちを確かにみとる

子どもたちは, それぞれの段階で, 多種, 多様な学びの姿を見せてくれる。その多彩さに, 教師の指導の手立ては, 対応していなければならない。個の学びに適確に対応した指導が展開されれば, 子どもたちは自らの学びに喜び, 成就感を味うことができる。

「できている」「まちがっている」は、見せるし、指摘することもできる。しかし、考之こんでいる子が、「なぜそうしているのか」を見ぬいて、指導の一手をうち、その子がハッとして活動を続けさせることはむづかしい。その場限りでなく、「なぜ、そのようにしているか」を洞察するに必要な目のつけどころと、そのみとり方を明確にしてこそ、確かな対応が可能となるのである。このような目のつけどころと、みとりを確かにするところに「評価」することの意味を見出したのである。

## (2) 個の学びや育ちが生きる学習過程の構成

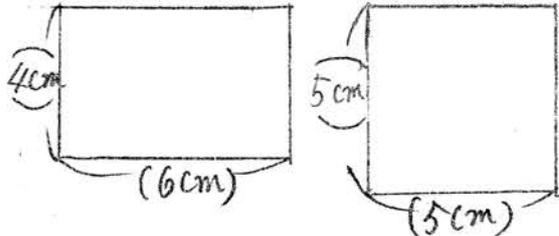
すべての子どもに学習の保証を、と願い、子どもの学びの姿にわけ入れれば入るほど、子どもの意識や行動の上に反映する内容の差に目をつむることはできない。このことは、個が集団の中で思考する内容を、どれだけ自分の思考内容の中に組み入れ、更新するかを重視することである。その見きわめのために、教師は常に集中すると同時に、個が最大限に発揮され、互いに生かして合って追求する学習集団づくりに砕心しなければならない。

この点を考之、認知的目標の他に態度的目標④、⑤を置く。

④は主として、思考・追求の過程を行動として表わし、⑤はよりよい学習集団として、他人を認め、他人とのコンセンサスを得て協力していく上での、その授業に臨むカ点とする。また、態度的目標④は、学習過程にたい、具体的な目標行動として段階的に細分化するとともに、3〜4人の抽出見をもって子どもを目標に位置づける。追求の様態を捉える視点としては、<課題に対する解釈の度合>と<解釈を生み出す操作力>の2面から促之る。ここで言う<解釈の度合>は、対象を捉えるときに深さの度合(表面的・本質的)と場面の拡がり(視野の広さ)の2つの観点で見、<操作力>は教材の本質をつかむために必要な操作を具体的な操作とするか、既知の知識を前提において推理するか等のレベルの違いでみていきたい。

### 3. 実践事例 4年算数「面積」の指導と評価

#### (1) 単元の学習過程と評価基準

観 点 別		認 知 的
		知 識 ・ 理 解
学 習 課 題 目 標 達 成 主 な 学 習 活 動		面積の概念を捉え、面積の単位とその測定の意味がわかる。 正方形・長方形の求積の仕方がわかる。
学 習 課 題 を 意 識 す る 段 階	◎ ㊸の長方形と㊹の正方形とで、どちらがどれだけ広いか比べよう。(長さは示さない)  ① どちらが広いが予想を立てて、比べ方を考える。 ② 広さはまわりの長さで比べられないことを話し合う。 ③ 切り取った2つの図形を重ねて比べる。	○ 広い、せまいという言葉が使えるときともに、広さのことを「面積」ということを知る。 ◎ 正方形、長方形を重ねたり、ずらしたり、切ったりして、広さの大小がわかる。 ○ 広さは、まわりの長さで比べられないことがわかる。 ◎ 広さを比べるには、単位となる広さのいくつ分かを数えればよいことを知る。
	◎ ㊸と㊹のちがいで、㊸、㊹をしきつめると、それぞれ何まいしきつめられるだろう。 ④ ㊸、㊹のちがいの形と大きさを調べる。 ⑤ 面積の意味と用語をまとめ、その単位 $1\text{cm}^2$ を知る。	◎ 単位となる面積は、1辺が $1\text{cm}$ の正方形にすると都合のよいことがわかる。

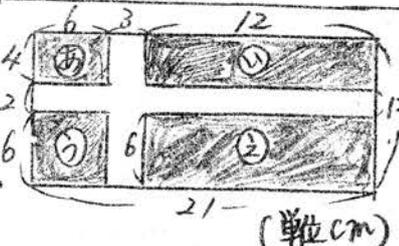
目 標	態 度 的	目 標 (A)	態 度 的 目 標 (B)
技 能	数 学 的 な 考 え 方	関 心 ・ 態 度	
<p>正方形及び長方形の面積が求まる。</p>	<p>面積の測定を長さの場合と結びつけてみるこゝができる。</p>	<p>面積について関心を持ち、進んで求積しようとする。</p>	<p>違った考へや意見を大事にして、自分の考へを深めようとする。</p>
<p>○直観で①の正方形の方が広いだろうと予想できる。</p> <p>○正方形、長方形のたて・横の長さを測定した上で広さ比べができる。</p> <p>◎たて・横を重ね、広い分だけ切り取り、比べられる。</p> <p>○どちらがどれだけ広いか言えず、広い分だけ取り出せる。</p> <p>(略)</p>	<p>○まわりの長さの大小で、広さが比べられないかと考へる。</p> <p>○を比べるなどして、まわりの長さで、広さは比べられないことが説明できる。</p> <p>◎広さも長さと同じように比べ、数で大小が表せられないかと考へる。</p> <p>◎長さで、ある単位のいくつ分として考へたことと、面積</p>	<p>◎まわりの広さは、ともに20cmだが広さは②の方が広いと関心を示す。</p> <p>○まわりの長さの大小で、広さ比べはできないことを説明しようとする。</p> <p>◎重ね合わせてどれだけ広いが取り出せようとする。</p> <p>◎同じ広さのものをしきつめて、そのいくつ分が表せようとする</p>	<p>○・②の方が広い ・①の方が広い ・②、① 同じ広さ という違った予想に出会い、自分の予想を確かめようとする。</p> <p>◎・まわりの長さをはかる ・おはじきなどを並べる(しきつめる) ・重ね合せて比べる ・たて、横を1cmずつに区切って なにより比べ方に対し、ひかれる方法がみっかり。調べようとする。</p>

(2) 本時「面積」の終末段階—公式の発展的適用段階の指導  
本時の目標

- ・ 認知的目標 ○ 長方形の一部を除いた図形の面積を、必要な長さを測って、計算により求積できる。
- ・ 態度的目標 ④ 白い部分の位置がどこにあっても、黒い部分の面積はかわらないことを見抜き、白い部分を端に寄せ、計算しやすくして求積しようとする。
- ⑤ 違った考えや意見の導き出された根拠をつかんで、自分の考えに取り入れようとする。

〈追求の様態を捉える視点と抽出見の位置づけ〉

課題に対する解説を生み出す操作	課題のまゝに①②③④の面積の合計を求めようとする	全体から、白い部分を引いて黒い部分の面積を求めようとする(黒い部分を)			白い部分を端に寄せ、計算をしやすくして
		プラス処理	考えない	マイナス処理	
・ 必要以上の長さを測って	Ⓚ				
・ 4つの長方形の(たて)(横)を測って	Ⓚ				
・ 全体の(たて)(横)と白い部分の中を測って					

学習課題 長方形の一部を除いた図形の面積を、必要な長さを測って計算し求める			
区分	学習活動	指導上の留意点	評価の視点
準備 (課題を意識する)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題をふまえる。</li> <li>右の図の黒い部分の面積(①)②③④の長方形の面積の合計を求めるには、どの辺の長さを測ればいいか(は)。</li> <li>辺の長さを測って面積を求めよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題意をはっきりつかませる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題意をつかみ、求積方法の見通しが立ったか。</li> <li>・ 何通りの方法が考えられるか。</li> <li>○ 求積に必要な辺の長さを正しく実際に測っているか。</li> <li>・ 必要最少限で</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どの辺の長さを測って、求積するか予想</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上の図を書いたプリントを各自に与える。</li> </ul>	

中  
心  
課題を追求する段階  
確認  
まとめ

○各自が自由に考える。

○考え方を発表し合い、みんなが考える。

㉞  $4 \times 6 + 6 \times 6 + 4 \times 12 + 6 \times 12$

㉟  $21 \times 12 - 3 \times 12 - 2 \times 21 + 2 \times 3$

㊱  $(12-2) \times (2+3)$

○面積の求め方をまとめる。

・㉞, ㉟, ㊱ 3つの求め方を関連づけ

○思考の実態をチェックカードを使ってつかむようにする。

○下位群には個別指導をする。

○どんな方法, どんな考え方も認めてやる。

○どの辺とどの辺を実測し, どのようにして求積したかを発表させる。

○自分との類似点, 相違点を比較させながら, 考えを深めさせる。

○4つの長方形の面積を求積し, 加えて求める外に, 全体の面積から, 白い部分の面積を引く方法のあることを気づかせる。

○白い部分の位置をかえ, 位置は

○長方形の面積を求めるときには, (たて)(横)の長さを測定し, (たて)  $\times$  (横) とすればよいと提えているか。

○必要な長さを実測し, 計算によって求積できているか。

○全体から, 白い部分を引く求積をしようとしたか。

○白い部分の位置に関係のないことがわかったか。

○白い部分をどちらかに寄せると計算し

#### 4. 授業をおえて

ひとりが2通り, 3通りと求積方法を見つける子がいて, 考察した視点などでは, 到底とらえられない追求の様態の多様さがあった。測定個所で区分し, ㉞と㉟の2通りしかない。㊱は㉞の発展として関連づけようなどと考えていた指導者は, 活発に発表する違う方法についていけない状態だった。このように子どもは探究心が旺盛で, 価値あるものを求めてやまない。学習の結果や方法を絶えず評価し, 自分の学習の進め方を改善していく姿を願っての日々の実践である。

#### 5. おわりに

"今, この子に何を, ... どう伸ばすと..." と考えたことが, 子どもの一挙一動をも見おとすまいとする姿勢になり, 子どもが何かに熱中し, 活動してくれているほとした時間に, 自分の本来のしごとが始まると思い, メモをとりつづけている今の自分である。

第18回 全国バス学習研究集会

「個の問いかげに心え磨き合う学習集団づくり」

思考を深める相互作用

個人思考と集団思考——人間関係を高めつつ

広島県豊田郡豊町立久比小学校 宮地 キヌ子

1. 研究主題とその要旨

ア. 昭和53年～昭和56年までの研究

イ. 昭和57年度の研究と課題

2. 昭和58年度の研究内容

ア. 授業の創造

イ. 自分から言ってみよう

自分から動こうとする子どもに

3. 学級での実践

ア. ものが言える学級に

- 学習時間中の子どもの実態
- 国語科からのとりくみ

イ. 自己表現を文章で

- 日記の指導
- 本音を出す

ウ. 話し合いに参加すること

- まちがいを恐れる

- いわない人がないように

エ. 算教は きれい

- 算教好きから 算教嫌いへ
- 実践への警鐘

オ. まちがいを まちがいとしてしまうか

- 話し合いのつまずき
- 人の意見を自分の思考の組み立てに
- 自己評価と相互評価
- 「先生、しゃべらないで」

カ. 教育活動の全領域での 話し合い

- 相互に尊敬と信頼を
- やる気を起こさせる

4. 今後の課題

- 学習活動の効率化と人間関係
- 学習集団づくりでの個の変容



4. 班のめあてやきまりを決める。

② 班の運営

- ・ 自分にきびしく、他人にきびしく。  
↳ (おもいやりのあるきびしさ)
- ・ 自信のない子から発言させよう。
- ・ わからなければ聞く、聞かれたら答える。

③ 話し合いのやり方

- ・ わかるところでよいから話してみよう。
- ・ モデルで練習 (復)

④ 聞き方

- ・ 相手の目を見て聞こう。
- ・ 自分の考えと比べて聞こう。
- ・ ロールプレイの実施

<ロールプレイ>

コンビバズで A 話し手  
B 聞き手

1. A キのうのことから話す。  
B よそ見をしながら聞く。  
① どうでした ② 何も聞いていないみたいで頭に来た。
2. A もう一度話す。  
B 目を見て聞く。  
① どうでした ② こんどは聞いてくれているみたいだった。
3. A もう一度話す。  
B 目を見て聞き、うなずいたり、時には言葉を返す。  
① どうでした ② 話しやすかった。

交替して くり返す。

⑤ 班日記

資2

- ・児童理解
- ・教師は朱書きをする。

⑥ ノート指導

考えを大切にしよう。(考えをノートに書く)

① 自分の考え、わからないこと

② わかったこと

資3

⑦ 教師の構え

- ・支援的姿勢で重畳を与える。
- 「今日は○○ちゃんかわからない事を質問してくれて、みんなとても勉強になったね。質問した○○ちゃん、えらいね。そして、いっしょけんめい考えたみんなもえらかったよ。」

⑧ 授業の流れ。(基本)

1. 個人で考える。 時間を決める。

- ・ どうしてそう考えるのか。
- ・ どこかわからないのか。
- ・ 時間があまれば、他の考え方はないのか。

2. 班バス 時間を決める。

- ・ 決まらなくても、決まらなくても必要はない。
- ・ いろいろな考えが出て、最終決定は個人の自由

3. 全体バス

- ・ 班で出た友達のことを言っておこう。

3. 算数指導の記録

資4

第7分科会（学級経営）

一地域課題をふまえて指導のありか—  
（支えあう集団づくり）

広島県豊田郡豊浜町立豊浜中学校

望月 民雄

	生		徒		数		
総数	199名	1年	53名	2年	69名	3年	77名

① 地域・生徒の実態

＜1＞ 地域の実態

- ・地理的条件は、瀬戸内海の小島。周囲12Kmの豊島と大崎下島の一部分、と間に奈島（周囲）4Kmを含めて豊浜町である。ここで交通の便、社会的な諸条件に恵まれない辺地性をおびている。
- ・職業的分布は、ほとんどが小型漁船による漁業と柑橘栽培とに二分される。

＜2＞ 生徒の実態

- ・生徒数の58%が漁業家庭であり、幼児期は両親のもとで船上生活、新学期今になって両親のもとを離れ兄弟姉妹や祖父母のもとで自炊生活に入る。
- ・このような実態から様々な問題が潜伏しているが、とくに幼児期の言語生活が不十分のため、その後の学習経験にいきょうしていること、集団の中に入りにくいこと、生活が不規則であるということ、規律性、しつけ面に対する傾向があるなどである。

※ 不在期間（両親）

	一週間	一ヶ月	三ヶ月	六ヶ月	計
人数	4名	18名	47名	10名	79名(40%)

※ 生活状況

	両親と	父を	祖父を	親せき	兄弟姉妹	本人のみ	学寮	寄宿舎
人数	98	21	15	3	29	11	20	1

## ② 学級づくり

### 資料1 中学生になって (R・K)

今日は、中学校の入学式だった。私は、二の日はくるのが楽しかった。式は1時間位で終了。教室に入って先生の話をきいて帰った。でも何かもの足りない気がした。それは、カバンと教科書がないことだ。私は勉強が好きじゃなかった。今はすごくやる気がする。特に英語がしたい。教室、友達、先生、制服、校舎、みんなみんな新しいものばかり。私の教室は4階の2番目。私は努力という言葉が好きだ。だから勉強も努力する。クラブももちろんがんばりたいと思う。3年間、何事も努力をモットーにがんばります。

※ 入学時の生徒作文に中学生生活に対する大きな期待が現われています。私達は、この生徒の願いを実現化していく学級集団づくりでありたいし、なげきはならないと考えます。

## ③ 取りこみ

### 資料2 台宿から学ぶ

僕は、6年生のときキャンプに行けませんでした。だからどんなものかもしりません。はじめは、いやだなーと思っていましたが、やってみるとすごく楽しかった。とくに夕飯の準備だ。ジャガイモをいれたりタマネギを切ったり、涙が出て目が腫れたけど、はじめての料理は楽しかった。土曜にカレーがとこもつまかった。この台宿では、最初の食事の時、男子女子とが混ざってしたが、誰かのせいか、の楽しい時をすごすのに男子女子男子女子となって食べようという声できちんとすわったことに、あかしてグループが仲よくなれたし、あの人には、あんなことがあるのか〜 ナンテ感じたりした。とへなかつた長縄も、みんなに応援してもらってどうどうまも回もつまりました。最初は班のみんなにのしかかかってきんかっただけで自信もたえるものかかりてきました。言葉にするのがおもしろい。キャンプファイヤーも終わりましたが、こんどはなにかへぬられませんか。それで小学校のころの話をしあったりしました。はじめは、(学校でやるのか)とえーことなるなと思ってましたが、終ってみると、すばらしい台宿だったと感じています。みんなも同じだろう。いつか自分の道を歩まなければならぬけれど、やっぱりよりになるのは、この仲間だと、この台宿ですごく思いました。

<1> これは台宿についての作文ですが生徒は活動を通して大きく成長していると思います。先の生徒の期待や願いを実現化していくために、まず年度当初の職員会で「支えあう集団づくり」というテーマを設定し、具体的とりこみとして、こうして集団活動の場を多く設定し、その活動を通して集団の質的向上と集団の中で個々の能力が発揮でき認められる)をはかることを確認しました。

＜2＞ 4月のオリエンテーションにおいて、学年として指導方針、それに  
対する心がまえ、生活目標などをプリント(No.3)し、生徒  
の考えを全体に示し、指導はきびしくあたることなどを約束  
(学校生活の手引 No. A)

＜3＞ 班組織によるクラス集団づくり

※ クラスを、4～5名の班という小集団に分け、班活動を通して集団  
の基礎をつくる。活動については次のことを実施した。

(イ) 給食配膳、後片付け、掃除。

(ロ) 班学習

(ハ) 班新聞 資料

(ニ) 班ノート (班目標 一日の反省) 資料 活動評価カード (No.6)

(ホ) 友達をみつけるカード 資料 (No.4)

＜4＞ HR活動 (短学活)

※ 午前中10分、午後20分の短HRをもち、全体放送を聞いてリ  
ンク連絡を行うほか、学級行事として次のことを実践した。

(ア) 私の意見、私の発表

(イ) 合唱

(ウ) レクリエーション

(エ) 教科学習ドリル

(ス) 学級の諸問題... クラス全体になげかけることにより、集団の中  
の1人を自覚させていく ⇒ 学活へ

＜5＞ 学年会 (資料 No.7)

※ 学級をこえて学年全体のつながりを深めるとりくみとして毎月1  
回は学年会を設定しています。

※ (学年団体行動訓練、合唱、レクリエーション活動)

(6) その他のとりくみ

(ア) 学級通信 (資料No. 8) <sup>継続は力なり</sup>とか、<sup>みんなかん</sup>はっている、とか、<sup>その大切さにつ</sup>いては何度も口にしましたか、<sup>-----</sup> <sup>これらをまとめて</sup>とはじめにのが学級通信です、<sup>ほぼ毎日出します</sup>が生徒の生活をそのまま記録するようにしている。

※(反応) 毎日コソコソ書き続けたく川に文字が、今はファイルに  
いつばい、私も何かひとつでも続けてみようと思  
いをこめて書くようになりました。

○この通信で私たちの知らないことがとれだけ伝えられ  
が、私も私しか知らないことや、グループのことを  
通信ノートに書くと思います。

(イ) ディベート ---- あるテーマ(争のムチは必要か)に対して賛成  
派と反対派に分かれ、自分の考えをしっかりと発表して  
相手を納得させるかというゲームです。このゲームで  
は、最後まで相手の話しを聞き、その後すじょうちを  
てて自分の考えを発表、というルールを重じ、みち  
発表力の向上を図る。

(ウ) 拍手運動

※集団のすばらしさを肌で感じさせる取りくみとして拍手運動があり  
ます。活動の中でかっはった人、準備してくれた人などに感謝の意  
をこめて拍手をおくるものです。今や定着しつつあります。

(エ) 明日のために

※活動の中で何を学んだらうか、自分自身をみつめるためにも必ず  
文章として残します。→私の代表

④ 反省と課題

こうした活動の中から生徒は集団のよさ、大切さをひとつひとつ体験  
し自分を大切に考え、学級を大切に考え、さらに学級をこえて活動が  
みられるようになりました。活動に自信もつけてきたようです。

実態調査によると入学時と卒業時を比較した場合、学力、学習態度、  
友達関係でのびが大きいと出ています。

しかし、生徒が本当に学級集団に支えられ、支え、共に生きるという  
意識をもった集団かどうかは疑問です。甘えあふ集団ではないはず  
だから、これから、いかにきびしく支えあふ学級集団をつくるかを  
課題としていと考えます。

(※ 資料(2)に準備)

学級は、生徒たちにとって自然発生的な集団ではない。それは学級(学習)の場がフォーマルな性格をもっていること。具体的には学校教育が計画的な教育であり、例えば、教師と生徒の人間関係においても、学級における教師は生徒が選択した教師ではない。このようにどうしたらこのフォーマルな師弟関係を、実質的なものに高めることができるか。——ここに教師にとって最大の課題がある。このような人為的に設定された学級を生徒たちが互いに単なるアグリゲートでなく、一つの共同目的をめぐって凝集し、集団のモラルを高めるにはどうしたらよいか重要な問題になり、実践につながってゆく。

私は、実践の理論的根拠を、昭和49年発足した全国集団学習研究協議会(略称・全集研)の主張する「個を生かす集団づくり」に求めた。以下の提案、発表は小集団を単位とした集団学習の実践例——学級づくりである。それは、『小集団学習(活動)の導入によって、学級や生徒がどのように変容したか』という命題へのアプローチでもある。

#### ※ 班のとらえ方

全集研では、学級の中に班(小集団)をつくることの意味、教育的なねらいも次のものに見出している。

- ① (相互の理解)、子どもたちが互いに、早くしかも深く理解しやすい。
- ② (創造性の育成)、それぞれが創意・工夫しやすい。
- ③ (個性の発展)、メンバーの個性をいっそう伸ばしやすい。
- ④ (全体の協同・まとまり)、学級全体が協カシ、まとまりやすい。
- ⑤ (自主性の育成)、学校の学習や生活は上から与えられたものではなく、自分達のものである、という自覚が生まれやすい。

つまり、教育または人間形成を行なう人間関係に着目し、それを学級の中でより生かすために班をつくる。そして個が班に働きかけ、または班が個に働きかけることによって、より高い個人と班が形成されてゆく。

※ 学習する集団(学習集団)形成のための三つの方法的観点

- ・ しくみづくり
- ・ よりどころづくり
- ・ ぬうちづくり

## 1. 基本的な構え

## 2. 学級づくり——その基盤となるもの

### (1) 学級集団の組織化

#### ① 小集団編成

(2) 集団活動

① 班活動の組織づくり

② 生活係の活動

(3) 学級の準拠集団化を求めて — 容認, 支援, 自律の筋道 —

① 出合い

② 私の願い

③ 学級のふん囲気しらべ

④ Xさんへの手紙

⑤ 班一ト

⑥ 昼食時の班巡回

3. 学習集団の形成と評価

・ 学習意欲テスト

・ 学習集団形成度評価

・ 協同性・競争性の評価

## 第8分科会 学習指導

研究主題 学習における小集団の指導はどのようにすればよいか

岐阜県 土岐市立泉中学校 水野せつ子

### <要旨>

本校の研究テーマ 昭和56年度より3ヶ年の研究期間を設定

「バズ学習の研究—授業における認知目標と態度目標の同時達成—」

(56年度) 子どもが生生きと取り組む学習課題のあり方—学習課題づくり

(57年度) 課題追求課程における個と集団のあり方—学習姿勢づくり

(58年度) 子どもがみも授業改善にどう生かすか—授業の評価

今年度は過去2年間の反省により、ひとりひとりを確実にとらえた指導の徹底を図ることとし、集団としての高さを予期しながら個の学習成果を求めて課題追求過程における認知目標・態度目標の診断・評価に取り組んでいる。そして、昨年度研究の中心課題として、態度目標についてそれなりの把握をしたものの認知目標が一応の客観的評価がなされるのに対して今一歩の確かめが不完全で授業改善までに至っていないとあり、どのような食いみ方を示すかが大きな課題となっている。ただどうあれ生徒の劣等感を助長するようなことは絶対に避けねばならぬと、最終年度として認知目標・態度目標の同時達成をめざす立場から、方途としては指導過程を重視した到達基準に基づく測定・評価（子どもの側に立って学び学んだ実感や自己評価していくような、あるいは学んだ実感を確かにするための）を究明し、合わせて期待される学力という観点から評価されるべきものになりたい願いがあがる。

以上の意味において今年度は3ヶ年の集大成の年であるが今後更に新しい課題にふつかることにもなる。ここに本年6月実施された全校研究授業（国語科）への全職員による取り組みを紹介し、本校におけるバズの導入による学習指導のあり方について存分なる御指導を仰ぎ、来年度に向っての前進の糧にしたいと考える。

## <研究内容>

子どもがみと授業改善にどう生かすか 授業の評価についての全校研究

〔 第1回授業 夕(金) 国語科 2A 山田利彦先生  
安岡章太郎 「サーカスの馬」 〕

### A. 事前研究について

#### 1. 研究プラン委員会より事前提案を受け研究の姿勢を確かめる。

- (1) 今年度全研の方向づけの使命をもち。
- (2) 大前提である「授業における認知目標と態度目標の同時達成」を主としてバス学習という観点から見ていく。
- (3) 特に授業の評価に焦点をあて、サゲマのもとに自己評価に視点をあてながら研究を進めていく。
- (4) バス学習の視点として、ねらいの必然性、バス課題の質を考へてバスの効果も追求する。進め方・方法などは従来通りを見ていく。
- (5) 今回の具体的視点として
  - ① 基礎学力をつける「予課バス」はどのようなものであったか。
  - ② 読みとりを「交流しあうバス」ではどのように自分の立場をはっきりさせる中でそれが行われ、認知目標と態度目標のそれぞれの達成度、および同時達成度はどうであったか。
  - ③ バスの方法はどうか。
  - ④ 全体での交流の様子。
  - ⑤ まとめとろでの学習姿勢および認知目標の達成度はどうか。
  - ⑥ 授業の感想を主とする自己評価をどのように評価するか。
- (6) 役割分担 — グループ研(国語科・英語科)、学年研、その他に分けて分担する。
- (7) 授業の流れに沿って更に細かい視点も確認し、観察担当者も配置する。(詳細は別紙)

## 2 国語科より示された資料で国語科のねらいを知る。

### (1) 国語科のテーマ

「ひとりひとりが自分の世界を広げる読みの指導。」

### (2) 国語科の読みにおけるバスでは

- ① 本読みの場合。
- ② 説明的文章における内容の確かめの場合。
- ③ 文学作品における読みとりの場合 → 本時

詳細は別紙。

### (3) 国語科の態度目標について

- ① バス時を中心とした学習姿勢にかかわる態度目標。
- ② 教科の本質にかかわる態度目標。

詳細は別紙。

### (4) 国語科における自己評価について

- ① 漢字・語句について → フォントによる自己評価。
- ② 単元時間ごとの読みとり → 授業の感想による自己評価。
- ③ 総合的評価 → 第二次感想文による自己評価。
- ④ 全般的なもの → アンケートによる自己評価。

いずれにせよ生徒が次時の課題意識をわめける方向にする。これが課題である。

## 3 学年研としての受け持ち分担を示す。

(1) 学年研では主として態度的目標の達成にかかわる部分に焦点をあてバス時の生徒の実態より人間関係上解決すべき課題と指導の方向をさぐる。学年会として担当するバス時の視点は以下である。

- ① バスの方法を決め、知って進めることができたか。
- ② バスの様子として、リーダーの働きか、リーダーとフォロワーの関係。

### (2) 取り上げるグループと観察者担当者

- ① バスの成立しやすいグループ ————— 9班
- ② バスの成立しにくいグループ ————— 10班
- ③ その時において状態が変わるグループ ————— 4班

詳細は別紙

4 グループ研(国語科・英語科)としての受け持ち分担を示す。

(1) グループ研では、文学教材の読みとりにあたる主として認知目標にかかわるバス学習の取り組みを次の視点で研究を深める。

- ・ バスのねらいと必然性、バス課題の質を考慮しながらバスの効果も追求する。(バスの方法も含める)

5 学年研・グループ研以外のメンバーの受け持ち分担を示す。(省略)

6 授業者が指導案による本時の内容説明を聞き授業の核心を把握

(1) 本時の認知目標

・ 「取り柄のない生徒」「人好きのしないやつ」「不良少年というものでさえたからな」などの表現から自分のことを悪く見ている少年が読める。具体的には予習課題でかわりのある言葉や読みとりを調べておくことについて。(かわった言葉には——線) それと本時の「読みとりを交流しようバス」で確認があった時にかわった言葉や読みとりには~~~~線を記入することになっており自己評価できる。

(2) 本時の態度的目標(バス時を中心とした学習姿勢にかかわるもの)

- ① 仲間の読みとりや朗読をひやかさず聞く。
- ② 仲間の読みとりや朗読を最後まで聞く。
- ③ 自分の読みとったことを素直に話す。
- ④ 相手の読みとりを認めながら自分の読みとりを出す。
- ⑤ 自分の読みとったことを途中までで出す。

(徹底追求が)

自らが精一杯読みとった読みとりを、仲間の読みとりにつなげ合わせることにより、なお一層豊かな新しい言葉の世界を手にする喜びとなり。

(国語科として本質にかかわる態度目標となり。)

すぐれた言語作品に込められたものの見方・考え方・生きることへのひたむきな思い、願いを言葉を通して確かにして豊かに読みとること。

(認知目標と態度目標の同時達成にたどり着くにはいかぬ。)

## B. 本時の流れについて (授業の要約)

### (1) 予習課題の発表 — 準備課題

- ① 基礎学力をつける予課バス → 漢字練習と本読み。
- ② 読みと交流しあうバス → — 線と ~ 線  
(疑問や問題点を出し合いにより課題意識をた。即時自己評価あり)

### (2) 教師を中心にした相互学習 (発表による全体交流) — 中心課題

(教師の指導がかわり、課題意識が深まり、即時自己評価できる。)

### (3) はじめの読みとりや言葉と比べて個人で評価し、それを全体に出させる中で 授業のまとめとなる課題を出す。 — 確認課題

### (4) 感想文を書かせ、本時全体の自己評価と共に、次時への課題を生み出させる。

## C. 授業の分析について (紙面の都合で詳細は別紙)

### 1 授業者の反省 — 特に視点④、⑤、⑥について —

④ 質の高い発言がかなり下がらないうち、自分の根拠をあきらかにしつ追完し深めていくことができなかった。(質の高い発言があったらいいかわらう)

⑤ 最後の発問で「自分のことをどう思っていたのか」の内容を考させたいが、生徒がまだ授業に慣れていなかったこと、構造的な板書をしつたこと、言葉を見けることに重点をかけたこと、言葉の数が多すぎたことにより、「ぼく」の姿の読みとりが弱かったといえるか。発問、板書、授業構造を考、授業に生徒が慣れてくるにつれて克服されると思う。

⑥ 事前にかたり読みこんでいる生徒の感想文を紹介し、生徒たちに慣れさせていかねはならない。授業構造そのものも疑問が出てくる必然性のあるものにしていかねはならない。今後は自己評価である感想文の一層の徹底と、それに合った授業の構造をはかりたい。

### 2 グループ研による教科内バスの分析と考察 (観点は次の3つにした)

- (1) ~ 線と — 線とみられる認知目標と態度目標について。  
(どの言葉に ~。 — とつけているかがど)

(2) グループ内の交流にみられる認知目標と態度目標について。

(発言回数と内容など)

(3) 自己評価にみられる認知目標について。

(教師の意図との関係など)

以上のほか注意ある点として、バスの基本を①知識の定着 ②自信をつける(明確に) ③わからないとわかるようになる(知る)におき、バスで指導の方向に向いたか、意欲は——にも意を払うこととした。

結果、今後の課題と問題点としては、バスの話しあいや自己評価が課題意識を生み出し、学習意欲を高めることは認められるもののバスの方向性が指示通りになっているかどうか、またバスのあり方によって向かう方向が異なってくる点などが留意すべき点となるのではないかとと思われる。

### 3 研究プラン委員会のまとめ(詳細は別紙)

★ 今後全校体制で手かけていくこと。(特に全研・教科研で出してほしい)

- (1) 生徒の自己評価の工夫と訓練の積み重ねをすすめる。
- (2) 授業のしきりで次の疑問が出てくるようにしむこと。
- (3) 56年度、57年度の研究とかがわって、課題づくりや追究方法をほきりともたねばならない。特にこれまでの「録中方式」をバックホーンとして各教科独自の中で取り入れて解釈していく。
- (4) 指導案に「評価の窓」を入れること。
- (5) 本時での態度的目標の意味・位置づけをより具体的に示すこと。

## 第8分科会 学習指導

研究主題 英語学習における小集団制の側面

兵庫県姫路市立花田中学校 高橋 正

### 0. はじめに(要旨)

教育の現場でしばしば耳にすることであるが、英語学習には、バス学習は適していない……といった主張が聞かれるのであるが、これはやはり、独断的であるとのそしりを免れ得まい。残念ながら教育の世界には、このような、自分の好みに合わないから……とか、苦勞が多いから……といった感性的な理由に立脚した判断の方法が顔を見せる。ここでは、少なくとも従来<sup>の</sup>教育研究よりも科学的と考えられる方法で、英語の授業の諸相を分析し、それぞれの諸相に最も適した授業形態を考えていく中で、その形態として小集団が適した場面を洗い出し、小集団を活用した授業と一斉授業を主体としたものとの比較を通じて、授業改造への手がかりを探してみたい。尚鑑定ながらバス学習研究の歩みを阻む原因ないしは、バス離れ現象の原因を考えてみる時、科学的論拠に基づいた研究発表ないしは、研究の方向づけに欠けるところにある、と考えるのは、独断か。

# 1. 英語学習の諸相と授業形態

英語教育の Syllabus Design の段階で長期的見通しに基づいた授業形態として、一斉授業、Pair Drill, L.L. Group Work などが、すでに考慮されているのが当然ではあるが、さうでは、一単位時間の授業の流れを、それぞれの諸相で切り取って、それぞれの授業形態を考えてみると、次のようになる。

A.	授業の流れ	授業形態
	1. 復習	一斉
	2. 新語の導入	一斉
	3. 新文法事項の導入	一斉
	4. Drill	個別
	5. 本文の Reading	一斉
	6. 本文の読解	一斉
	7. 文法事項を含めた Writing	一斉
	8. 次時への予告	一斉

英語にバズ学習は適していない、という主張の授業形態を考えてみると上図表のようになると考えられる。このような授業は、R. Lado (1964) の (1)注意の喚起 (2)例の提示 (3)反復練習 (4)一般化のため (5)練習といった英語授業の5段階説に大なり小なり立脚しているものと考えられる。

更に W.M. Rivers (1969) は、生徒の学習活動への参加形態として、学級全体(一斉)、個人、小集団、と3つに分類し、それぞれのバランスがとれた指導が望ましい。と述べている。この理論に基づき授業を考えてみると次のようになる。

B.

授業の流れ	授業形態
1. 暗唱のチェック	小集団
2. 聞きとり作業	一斉
3. 聞きとり理解	小集団
4. 聞きとり理解の確認	個別
5. 文法、語いの説明	一斉
6. Drill	小集団
7. 話す作業	一斉
8. Pair Drill	小集団
9. 発音Drill	一斉
10. Reading Comprehension	小集団
11. Writing の作業	個別
12. Writing チェック	小集団
13. まとめ	小集団
14. 次時入の予告	一斉

## 2. 生徒の学習参加の対比

以下、A表及びB表の流れに基づき授業を実現し、それぞれの授業

に於ける生徒の学習への参加の状況は、次の通りであった。

項 目	授業形態	A	B
1. 発言の回数		63回	186回
2. 席を立って授業参加の回数		8.	61.
3. 私語の回数		25.	42.
4. 一度も発言しなかった人数		6人	0人
5. 教師の発言(発問も含む)		1015回	767回
6. 生徒の感想		<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても苦しかった</li> <li>・お礼発表の時から</li> <li>・わからなくても友達に尋ねた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんないっしょに動いて楽しかった。</li> <li>・気軽に話し合えることができた。</li> <li>・わからなくても尋ねることができた。</li> </ul>

2年1組 19名 --- A表による授業を實施

2年2組 19名 --- B表による授業を實施

回数は延べ回数

以上のデータからわかることは、いかに教師がしゃべりすぎているかを自戒すると共に、生徒の私語がふえる傾向が見られるのは、小集団学習方式の基本的行動様式のしつけの甘いことと表わしている。

しかし、小集団を活用することによって、確かに生徒の学習への参加の状況が高くなっていることが認められる。

### 3. 成績の対比

前記の2年1組及び2組の、2年生になってからの成績を対比すると次の通りである。

	進級テスト(%)	中間考査(%)	期末考査(%)	(D)	(T)	(P)
A	50.0	70.4	54.1	24.5	0.61	0.5
B	51.0	72.6	58.9	22.7		

成績の対比に関する限り充分なデータに乏しいのだが、期末考査に関してのみ、有意差検定を試みてみた結果、有意差は認められなかったが、今後の継続実践によって有意差の生じる可能性を念入りにしている。

### 4. おわりに

今回の研究に於て、最も心残りの点は、生徒相互の Interaction を、科学的に把握する方法とデータをとるための観点が、わからず、放置してしまったことである。今後、幸いにして、姫路教育研究所に設置されている演習室の視覚、音声両方の収録設備を駆使して、この面の研究を意図している。

こうした科学的分析に基づく研究が、最近の困難な条件のもとにある学校教育の打開策の一つとしてのバズ学習となる、可能性を信じたが

4. 今後の研究に取り組んでいきたい。

参考文献

1. R. Lado, Language Teaching, McGraw-Hill, Inc. 1965, P95.
2. W. M. Rivers, Teaching Foreign-Language Skills, The University of Chicago Press, 1968, P172
3. 中島文雄, 講座 新しい英語教育Ⅲ, 大修館, 1976.
4. 青木昭次, 個人差に応じた指導, 雨隆堂, 1980.
5. \_\_\_\_\_ 他, 指導法ハンドブック④ 大修館, 1983.
6. 大内茂男, 講座 英語教育工学⑤ 研究社, 1973.

Memo:



中のでこそ形成立れま」がらである。の重要性を、授業の認識過程  
とこの側面から述べて自主協同学習にしたい。

(1) 社会認識の形成と自主協同学習

社会科授業の目的は、基礎的知識の習得と、社会生活に必要な能力の育成にある。この観点から、社会認識の形成と自主協同学習の関係を考察する。社会認識とは、社会の構造や機能を理解し、社会生活に必要となる態度や行動を養うことを指す。自主協同学習は、学習者が主体的に学習に取り組むことで、知識の定着や理解の深化を促進する効果がある。社会科の授業では、社会認識の形成を目的として、自主協同学習を取り入れることが有効である。具体的には、グループワークやディスカッションを通じて、社会問題について話し合い、意見を交換し、解決策を模索させることが効果的である。また、社会科の授業では、社会認識の形成を目的として、自主協同学習を取り入れることが有効である。具体的には、グループワークやディスカッションを通じて、社会問題について話し合い、意見を交換し、解決策を模索させることが効果的である。

(ア) 発達の制限より

人間の発達には、年齢や環境による制限がある。社会科の授業では、発達段階に応じた学習内容や方法を設定することが重要である。また、社会科の授業では、発達段階に応じた学習内容や方法を設定することが重要である。また、社会科の授業では、発達段階に応じた学習内容や方法を設定することが重要である。

(イ) 思考の限界性より

人間の思考には、経験や知識による限界がある。社会科の授業では、思考の限界性を克服するために、多角的な視点や批判的思考を促すことが重要である。また、社会科の授業では、思考の限界性を克服するために、多角的な視点や批判的思考を促すことが重要である。

(ウ) 本来的な認識成立のあり方より

本来的な認識の成立には、学習者の主体的な関与や社会との相互作用が不可欠である。社会科の授業では、本来的な認識の成立を促進するために、学習者が主体的に関与し、社会との相互作用を通じて知識を構築させることが重要である。

## 2 社会科における自主・協同学習展開へのアプローチ

自主・協同学習は、授業に比べて、おもしろい展開を  
 入るべきに、授業よりも、おもしろい展開を  
 入るべきに、授業よりも、おもしろい展開を  
 入るべきに、授業よりも、おもしろい展開を

### (1) 教材研究にかかわって

#### ア 指導計画の改善

習者間の各分野、各立場、各時間、各場面、各側面、  
 習者間の各分野、各立場、各時間、各場面、各側面、  
 習者間の各分野、各立場、各時間、各場面、各側面、  
 習者間の各分野、各立場、各時間、各場面、各側面、

#### イ 問題意識の高揚

自主・協同学習は、授業に比べて、おもしろい展開を  
 自主・協同学習は、授業に比べて、おもしろい展開を  
 自主・協同学習は、授業に比べて、おもしろい展開を  
 自主・協同学習は、授業に比べて、おもしろい展開を

### (2) 授業過程にかかわって

#### ア 認識過程の確認

授業に於いて、授業に於いて、授業に於いて、授業に於いて、  
 授業に於いて、授業に於いて、授業に於いて、授業に於いて、  
 授業に於いて、授業に於いて、授業に於いて、授業に於いて、  
 授業に於いて、授業に於いて、授業に於いて、授業に於いて、







第9分科会 生徒指導

研究主題 よりよい人間関係を育成する生徒指導

愛知県春日井市立鷹来中学校 高木保春

はじめに

本校は昭和56年度、校内で生徒の逮捕者を出すなど、校内外での乱れはそのピークにあった。教師と教師、教師と生徒、生徒と生徒の間が、常に、不信と警戒心のうずまく中であって、まともなことをつぶしにかかる一部生徒と、それにしたがわざるを得ない生徒、それらの生徒と教師との戦いがここから始まった。

学校としての機能が形骸化しているのではないかといわれてもしかたがないような状況であって、口には出せない、行動では示せないが、いいふん囲気の中で学習したい、クラブ活動をしたいという大勢の生徒が一方ではいることを私たちは知った。

そこで、私たちの指導力の向上をはかることも考えながら、次の4つを柱にすえ実践していくことにした。

- ・ST(短学活)を学校や家庭生活の接点とし、自分たちの生活の向上をはかる相互活動が出来るようにする。
- ・授業の中に相互活動が出来る場面を設定し、生徒の参加度を高める指導法について考え実践する。
- ・基本的な行動様式の定着化をはかるため、生徒指導部を中心のして教師の協力体制と指導の徹底をはかるようにする。
- ・地域との連携を強化し、情報の交換・早期入手をはかり、少しでも早く対処することと地域が非行防止のため立ちあがってもらうよう努力する。

どの1つを取ってみても大きな課題であり、一時は1つにしぼることも考えた。しかし、現状からたとえ浅くてもいいから、まず、全体的に底上げをはかる必要にせまられ、実践出来る状況をつくり出していくことになった。

そのような状況をつくり出すことによって、真の相互活動を考え、他人を理解し一人ひとりの向上のため力を出しあう人間関係を育成していけないも

のかと考えてきたのである。

### 実践内容

生徒の学校生活の基盤は学級であり、どのような学級にしていくのか大切な問題である。現在どんな状態であるのか担任は正しくつかみ、どのような手だてを加えれば向上に向け動き出すのか常に考えていく必要があり、実践に移していかなければならない。

学校が学校としての機能を持つためには、一番の基である学級が、学級として機能を持ってこななければならない。さらに、学級をつくっている小集団が、その機能を発揮してこななければならないと考える。

私たちは学級づくりの最も大切な場としてSTを考え、生徒の生活のすべての接点としてとらえ重視してきた。ここでは、STの実践についてのみ以下に記したい。

#### ◎ STの取り組みについて

・ 昨年の9月段階には、STらしいSTが行えないようなクラスもあったが、大筋では生徒はグループにならず、全員が前を向いた隊形で行われ次のような内容のものであった。

##### (朝のST)

- ・ 朝学習
- ・ あいさつ
- ・ 健康観察
- ・ 一日の目標づくり
- ・ 家庭学習の確認
- ・ 忘れ物しらべ
- ・ 先生の話

##### (帰りのST)

- ・ 家庭学習の確認
- ・ 生活面での反省
- ・ 係からの連絡
- ・ 明日の持ち物の確認
- ・ 先生からの連絡
- ・ あいさつ

この通りがそのまま行われていたわけではないが、内容をひろりとこのようなものであった。また、実質的な効果は少なく形式的に流れているだけではないかという問題、朝や帰りのSTに30分をあてているが時間ど

おり始まらない、てきばきと進行できない、内容が多い、態度が悪い等々の問題が校内現職教育の場に出されてきた。

・小集団による活動が取り入れられていないこともあわせ、STのプログラムを固定化していること等反省し、小集団活動の意義を確認するとともに、次のことを共通に持って実践していくことになった。

- (ア) 教師自身が、互に呼びかけあってチャイムと共に教室に入れるようにすること。
- (イ) 時間のけじめを常に意識させること。
- (ウ) 始まりは、生徒のとりかかりやすい形式的、事務的な内容のものとする。
- (エ) 家庭で学習することや学習の方法は、具体的に授業の中で指示する。
- (オ) 共同で解決を必要とする生活上の問題を意図的に入れること。
- (カ) 学習も班で活動できるような内容のものとする。
- (キ) 班日記を書かせるようにすること。
- (ク) 「〇〇班の話し合いは、〇〇でよかった。」等いい点を見つけ評価していくこと。

以上をもとに、STの公開期間を設け互に公開しあい、互に参観し合うことを何度かくり返し、また、現職教育の場で話し合ったりもしてきた。

・昨年度の実践では、小集団(班)による活動の意義を認めながらも取り組みぬぐラスがあったり、班日記にいたっては、数人の教師の取り組みしかなかった。

しかし、本年度班日記の意義や重要性がクローズ・アップされてきた。経験のある教師の一部から出る、いかげんなことしか書かないという意見のある一方、教師の気付かぬことがわかってよかったとか、班内で話し合わせるのにいい話題が出てきた等の報告もあり、さらに朱を入れてやることによって、書いた生徒と教師の意志の疎通がはかれるなど出されてきた。

班日記は、生徒同志や先生と生徒の関係をよりよいものにしていくための素材が提起され、意義が大きいという確認がなされた。

そこで、次のことを共通の指導事項・扱い方として、担任の全員が取り組むことになった。

- (ア) 班日記を書く意味をわからせること。
- (イ) どんなことを書けばいいのか指導すること。
- (ウ) 一ページは書くよう指導すること。
- (エ) 教師に対して書くのではなく、仲間に対して書くような姿勢で書くよう指導すること。
- (オ) ふまじめな書き方が出てきたら、事情を聞き指導をすること。
- (カ) 必ず朱を入れて返すこと。
- (キ) 教科に関する内容であれば、教科担任の意見も入れること。
- (ク) いい書き方、内容についてクラスの全生徒に紹介すること。

また、学級会、学級指導等の時間に取り上げていくこと。

#### ◎ 結果について

生徒の代表2名が前に立ち、プログラムに従い形式的に流れていたSTが、朝の学習、一日の反省等学年で統一した方がいいことは、どの組も行い、他はクラスの事情にあわせ柔軟に扱われるようになった。

また、相互活動の場面もみられるようになってきた。例えば、

- ・一日の目標を班で話し合い班ごとに決める。(組の目標にもなる)
- ・朝学習でわからないところを聞き合い、教え合う。
- ・一日の学習でわからないところを出しあい教え合う。
- ・あいさつ運動、530運動について、クラスの取り組みを班で話し合う。
- ・班日記の中の問題を話し合う。

等々、そして、このような相互活動の取り組みが、班長の役割、指導の方法へとつながっていったり、班日記へと結びついていった。

その班日記が、個人の感想、教師や班員の批判といった内容から、先に書かれた内容について意見が出され、班日記の中で討論されるような状況が生まれてきた。

また、班を向上させるための提案も出されるようになった。

しかし、すべての組がそうなったわけではなく、クラスによる差も目立ってきた。一部生徒の妨害、やる気のない生徒を前にして、相互活動がなかなか実現できず苦しんでいる教師の多い状態ではあるが、まともな生徒がちろんで生活していた頃を思うとかなり様子が変わってきた。

次に班日記の内容が、STの相互活動と結びつきよりよい班づくり、学級づくりに結びついていった例を2～3あげたい。

(例1) 協力的な班をつくるため、班対抗のバレーボール大会をとということから学級会に取り上げられ、STで班ごと作戦など話し合われ大会が行われた。協力が十分できなかった生徒について班日記に「・・・今日のバレーボール大会は15対1という悲惨な結果でした。こんなこと書いたらいかんと思うけどもう少し浅井さんに動いてもらいたかった。・・・池田君も西村さんもがんばったんだから・・・でもミスしてもやつあたりせず励ましあって1点とれただけでもよかったと思う」浅井さんは「早くこのノートに書きたかったんです・・・バレーボールのことがずっと気がかりであやまりたかったんです。班員のみなさん、すみませんでした。一人ひとりが全力をつくさないと班の人たちに迷惑のかかることがよくわかりました。」(3年)

(例2) 3班の班日記からクラスに花を置くために、みんなでお金を出し合おうとあった。同じ班の中で種から育てたらどうかという意見が出た。そこで、これを全員に紹介し各班で話し合わせたところ、どの班も大賛成であった。8班の提案で、各班が種や鉢をもちより競いあって咲かせることになった。それまでは気付いた人が持って来ることとし、「花をありがとう。」の掲示をすることなど決められ実行に移された。(1年)

(例3) 仲間はずれについて解決していかないと班活動はよいものになっていかない。という意見を滞りのSTに紹介、アンケートを取ったら仲間はずれが2の4の最大の難点であることがわかった。各班で具体的な例や対策についてかなり真剣に話し合った。全員で対策について確認し合い、努力していくことを誓い合った。その後の班日記から「今もその子はみんな

から嫌われています。だれだれかが話しかけ仲間に入れてあげないと、このまんまで。そんなのがまんできません。……少しずつ私たちにとけこんでくれるといいなあと思います。……野外学習の班にその子を入れました。もうスタートしたのです。がんばってみたいと思います。」(2年)以上、1年生は入学当初から学年職員の共通理解と一貫した指導姿勢がとれたことから、初期の段階ではあるが相互活動の定着化が進みつつある。

2・3年は途中からということもあって、組の事情も異なることから1年生ほどではないにせよこの様な例が、上げられるようになってきたこと自体に進歩のきざしを感じている。

おわりに

まともな学校であれば、当然行われていることであり、つまらないことかも知れない。しかし、今の私たちは、当たり前な事を当たり前出来るようにすることが願いである。2・3年には、非行生徒と呼ばれている生徒が数パーセントいる。以前は、この様な生徒が目のとどかないところで力を持ち教師は、それらの生徒の対応に中心をおいてきた。いやおかざるを得なかった。そのため、まともな生徒を放任せざるを得ない事情にあった。

その様な状況が全体を乱していったとの反省から、大勢の生徒中心に考えSTから入った。STでの相互活動が、授業へも取り入れられ課題内容を考える必要から「授業計画カード」を生み、「授業記録ノート」生み出してきた。小集団による相互活動を基盤にして生徒会活動やクラブ活動が行われるようになり、班日記を中心とした指導を根気よく続けることによって、非行を許さない、生み出さない集団が出来あがってくるものと信じていきたい。

地域連携では、小中が互に授業を公開し合い話し合ったり、共通テーマで情報を交換したりして指導の方法を考えたりしてきた。また、それぞれの地域に出かけていき、小中の保護者や他の人々との懇談会を持ち、非行をみがさない地域として立ちあがってほしいことを依頼したりしている。最近出席者が多くなり、強い関心が示されてきたことを私たちは喜んでいる。

第18回 全国バス学習研究集会 第9分科会

主題 生徒非行を生みださない指導はどうかいかに

—— 確かで豊かな自己表現力を求めて。——

岡岡市立河南中学校 遠畑 勝人

▶ はじめに ◀

1981年(S.56年)9月3日、午前10時30分からの  
時生徒総会に、4時間余に及ぶ大激論を経て、尚結論が出な  
かった。土曜日で午前授業であるにもかかわらず、昼食も取ら  
ずに、帰るスクールバスの時間を何度も延長させても、尚彼ら  
は、河南中の改善のために論じた。ある者は激昂して全体の前に  
飛び出し、ある者は涙を流して絶叫した。「お前ら、河南中学校  
が他校生やおとぼけたちから悪く見られていて、くやしくない  
のか!!」、「あんたたちみたいなのツツパリがいるから悪く見ら  
れるじゃないの。何がおもしろくてツツパってんのさ。私たち  
から見ればバカみたいよ!!」、「上級生なんか早く出ていけ!!」  
事の起りには、2日前に他校(複数)生が男女30名ほどで、  
木刀や野球のバットを持っておしかけてきたことである。本校  
の生徒は誰も相手にしなかったのであるが、翌日になってその  
出来事が、速になつて関係機関へ伝わっていたことを生徒が知  
つたために、一斉に生徒が「おれたちが悪くはないのに、何故い  
つても河南中生は悪いと決めつけるのだ」とさめぎおしたのであ  
った。

生徒総会に、結論が出ないまま生徒会執行部に問題とやらね、  
執行部は学級討議へと、議題を整理しておろした。この集約  
のための生徒総会が、以後、一週間おきに2回持ちこたえ、別紙資  
料のような「河南中の改善をめざして」にまとめられた。執行  
部はこの決意書を、学区の家毎に配布した。

( 1 )

## 研究主題 —— バス学習による確かで豊かな自己表現力 ——

### ▶ バス学習に取り組んだ経緯 ◀

本校が指導過程の中にバス学習を組み入れたのは、前述した生徒会決議を上げた年と同じ、1981年(5.56年)で、今年でちょうど三年目になる。生徒会決議を上げたのが二期早々であり、小集団学習としてバス学習を組み入れたのも、同じ二期である。本校生徒が、前述の決議を上げることは、臆目に値することであるが、同時にそれは、当時の生徒がこれほど病人でいた証拠でもある。

本校は、生徒数654名、学級数16、の中規模校であるが、学区面積は、咸岡市の $\frac{1}{4}$ (25%)と占める広範囲学区をかかえている。スクールバスで通う生徒の中には、片道25km以上に達する者もある。それだけに、保護者の職業も多種にわたり、学校への要求もさまざまである。進路指導もいきおい多様な面に及んでいる。咸岡市内16中学校の中で、就職指導に時間を取る割合が最も多いと思われる。

このことは、生徒の日常活動の中にいろいろな形で反映されてくる。いわゆる学習意欲の低下、後身一方の授業、まじめな者へのひやかし等々がそれである。学校の雰囲気も、現状満足ムードに流れ、非行の数は<sup>が</sup>市内はおろか、ある時期は、県内に下りて来ることが広がるほどであった。

このように生徒の実態を前にして、意欲あふく生徒集団を作りたいという願いを達成するために、まず取り組んだのが、「授業の改善」であった。そのために、指導過程の中にバス学習を取り入れ、その効果の研究から着手した。次いで、生徒の自主性を伸ばすために、部活動、リーガー育成、全校集会活動へと実践を広げていこうとしている。以下、順に述べてみたい。

### ▶ 研究内容 ◀

#### 1、学習指導法の改善

どの子も参加する授業をつくり上げることが、当面の最大の課題であった。したがって本校のバス学習は、授業改善のため

に取り入れたのがはじまりである。バス学習を取り入れた当初は、芝辻校の例をそのまゝ踏襲していた。昨年、一昨年と2年連続の公開研究会を持ち、多くの方々の励ましの中から、本年は到達目標に運動する課題設定と、教科リーダーの育成に力を注いでいる。

## 2. 学級集団の育成

### (1) バス学習の手引きの活用

授業だけでいくらバスを取り入れても、学級集団が育たないことにはどうにもならないとの話し合いから、本年2月からバス学習の手引の作成に着手した。本年4月からは、常時教室に置いて、いつでも、誰でも使って指導できる方法をとっている。

### (2) 生活点検の充実

昨年来、生活バスの時間を短学活含み25分間、放課後に特設し、一日の反省と点検活動に当てている。

- 一日の反省： 生活バス) 一ト記入
- 班バスで反省のまとめ
- 各係からの連絡： 一バス) 一トに記入
- 話し合いたいこと： 提案、生徒会下野討議
- 明朝の朝自習の課題 — 家庭学習 — 朝バスで答合せ
- 担任の連絡、指導
- 学級合唱
- あいさつ、戸締まり

### (3) 学級班長会

毎週火曜日と、学活係先日に設定し、長時間の学級会活動や、班長会に使用している。

- 1週間の学級の状況の反省
- 各班の活動の点検、チェック
- 今週の活動計画
- 学級会提案事項の整理
- 授業の取り組み反省

### 3. 自主活動の推進

#### (1) 学年生徒会の育成

学年間の諸問題の処理、解決のために、学級会長、副会長2名、書記2名の5名を各学級から出して、学年生徒会を組織している。

- 年間目標の設定、(学期ごとの目標の場合もある)
- 月、週別の目標と点検
- 学年集会
- 合宿訓練計画と実行
- 各学級の問題処理 等々

#### (2) 生徒会委員会の充実

月はじめと、月の終わりに委員会を評し、各月の活動計画実践、反省のサイクルで部合いをする。

#### (3) 生徒会活動の充実

### 4. 全校合唱への取り組み — 全校集会 —

「合唱は独唱の集合体である」生徒一人ひとりが、自我に目をつけ、自分をよりよく、素直に表現できるものであるならば、すばらしい全校合唱ができるはずである。本校では、伝統的に合唱に力をそそいできた。学級合唱 — 学年合唱 — 全校合唱と常に校内が合唱で満たされるようにしてきた。合唱することによって心をつなぐ力を上げてきたつもりである。

### ▶ まとめにかえて ▶

とにかく非行といわれるものが激減した。校内外における暴力的事件は、この2年間ゼロである。授業の抜け出しもない。残っているのは万引ぐらいである。これもこの夏休みは2件。年間、645名の生徒で、20件ぐらいの万引程か(多いうか?)である。10年間の河南中では、自を見張る少年が下である。原因が、生徒会決議文にあるのか、バスを取り入れたことによるのか、よく分析できない。たぶん、バス学習を取り入れたから、生徒間や、生徒と教師の人間関係が、非常におだやかになったのは事実である。楽しい学校になっている。

## 河南中の改善めざして

私達は今、この河南中学校の内外に起こっている問題を自分たち自身の問題としてとらえ、それを自分たちの手で解決する大め一丸として立ちあがろうとしています。私達には、まず、外部から良くほしいことで河南中学校の名前をときどきつわめられて、とて迷惑したり、くやしめたり、ほろい思いをします。また学校内におこっている暴力や虐待などはまざまざと問題について、私達もこの中に巻き込まれておる。どうしてこのように問題が起こるのか、外部から河南中の評判を傷つけられるのはなぜか、はな、これらの原因や対策のめり方はよく考えました。そのため、再度にわたって臨時生徒総会や学級討議も行いました。また教行部では、夜遅くまで何度もよく総会のもち方や、この問題をどうとめると話し合いをもちました。その結果、臨時の代表議会を決めようとしてこれからの進め方を決定しました。今年度の生徒会のスローガンは、『躍進』として躍進です。このスローガンにまっしぐら、カチン、学習に全力をつくします。その時、河南中は……？何とていおれたいかあることだほくほり、さあば河南中といおれらる学校にはるせ思ひます。私達らの学校は、日進歩のめりたおれらる学校です。自慢をもち、麻さんのおめりたおれらる人間にほりたおれらると思ひます。

### I. 暴力について

1. 誘惑をよめたり、迷惑しおれらる。
2. 暴力行為を奨めたり、問いたりしおれらる、先生、または生徒会、学級役員に必ずおれらる知らせる。(知らせをよめたりた学級役員は必ずおれらる報告する。)  
・報告をよめたりた生徒会教行部は、生徒委員会と協力して事実を調査する。  
(場合によっては、先生にも協力をおれらる。) )
3. 投着物をむつとふやし、校内の様子ほりおれらる知らせる。  
・場前：新校舍、南校舍2階、北校舍1、2階に各1つおれらるつけたりつけたり。

・投書箱は各学年の顧問部、整美委員会に一つずつ作ってもらう。

・投書箱は、毎週金曜日に回収する。

4. 当番を定め、校舎内外を巡回する。

・生活、体育、文化の各委員長が当番をきめて巡回する。

・場所的には、各教室、各教室、体育館敷、トイレ等を巡回。

・時間的には、業間、放課後（クラブ活動が終わった後）に行き。

5. 暴力を及ぼした人は、全校朝会の前、反省文を讀んでもらう。

・反省文は、原稿用紙三枚以上。

・反省文は、生徒会本部室前に掲示する。

6. 学年下進取会を行う。

・臨時下学年集会をむけてもらう。

7. 親に連絡し、注意してもらう。

・親には、電話、口紙などで執務部へ連絡する。

8. 卒業生のおばさんへ、校舎をよくするたぐいに協力していただく。

9. 校庭のうちまわりをに開かせる。

・執務部、執行委員と、罰をみたと思われる人の学年の学級生徒会の代表の立ち合いのもとで開かせる。

10. 髪を切ってもらいさせる。

・男子は五分刈りにする。

・女子は前髪をのびた状態が手巾かぶり、目が半分をふくむくらいは刈りにしてほしいとお願いする。

## II, 盗難問題について

1. 自分の行動に責任をもち、おしと注意する。

2. 必要のけいお金は、絶対もってこけない。

・どうしても必要があって持ってきたときは、H.R.の所に、先生に報告する。

3. ぬきとち検査を行う（持ち物）

- 週に一度は必ず行なう。
  - 日時、生徒会級と生活委員が決め、(生活委員は、その日に報告)
  - 各学級の生活委員が中心となる。
- A. 持ち物は、各自しを名前を著く。
    - 持ち物は、持ち物さの下の名前を刻しておくと。また、学級で登録番号を記入しておく。
  - B. 用いはいはきは、他の教室に勝手に絶対出入りしたりしほ。また、出入りさせない。
    - 持ち物は、学級で登録番号をつけ、名前を記入する。
    - その人の持ち物は、学級で登録番号を記入しておく。
  - C. 用いはいの持ち物は、各自しを著く。
    - 持ち物は、各自しを著く。また、学級で登録番号を記入する。それと同時に、生徒会執行部は、お名前を知らせ、可く調べたり、さぐりたりする。(ただし、校外にはたつる指導は、先生が中心となる。)
  - D. 学級、学級で追及会を行なう。
    - 執行部では、学級で行なう。学級で行なう場合指示する。

### III, 遅刻(ベル席)について。

1. おしほは、遅刻前行動を心がける。
2. 生徒委員会、生活委員は、遅刻をさがす。
  - 学級で調べた結果は、生徒会本部資料の教に記入する。
  - 委員会で調べた結果は、分級期会で、学級、クラス、名前を報告する。
3. 学級でグラフをつくり、生活冊がさびしく調べる。(遅刻、ベル席)
  1. 来週の水曜日まで待つ。
4. 遅刻は週に2回、ベル席は日に2回行なう。また、学級で追及会を行なう。
  - 追及会は、学級で、生活冊が中心に行なう。

( 7 )

- ・連夜会場を通過して、学級での対策を考案する。
  - ・月に一度は必ず学習集会をもち、学級での対策等について討議する。
- と、親に連絡して、適切な対応を協力してもらう。
- ・学級で、日かき 電話によって連絡する。

先にクラスで学習状況を把握する作業を済ませました。まずそのためには、つぎのことを実行してほしいと思います。そして、学習やクラスにベストをつくしてもらう。

★クラスに全員が力になる。

- ・クラス活動の状態を、毎朝 文化委員会に報告してもらい、不活動はクラスに注意してもらい。
- ・欠点を通知する
- ・無断欠席や、活動不参加等についてきたとき、クラスの報告を待たず、原因や対策について話し合える。
- ・大会場における 目標を立ててクラス活動を行う。

★学習を本質に行なってやる。

- ・授業に集中する。(むだ話をしてはいけない)
- ・目標をもって自主的に学習にむかふ。
- ・学級では 学習指導要領の趣意をやる。
- ・その目標、長目标是、その目的のために学習する(家庭)

IV, たばこ喫について (中學生として、ふさわしくはい) (昔時、は問題行動も含め)

- ・Iの暴行についてと同じように整理する。

今後、執行部では、問題が起るに、決断事項に基づいて対処していきます。しかし、その場合、問題を起した人の心状傷つかわるや、充分に気を付けていきたいと思っています。

生徒非行を生み出さない指導はどうすればよいか

ツッパリ生徒と柔道

—生徒に感動場面を与える柔道指導の一例—

1. はじめに

2. 学校の実態と問題点

3 親子柔道練習会

4 親子柔道の講道館、日本武道館に進出

5 昼休みのラグビー

6. 部活終了時間の厳守について

7. 黒帯とツッパリ生徒

8. フレハブ道場と扇風機

9. こんな場合はどうするか.

10 おわりに

第五分科会(体育)

No	県名	学校名	氏名	昼	備考
指	愛知	中京大学	杉江修治	○	
"	兵庫	前加西市立北条小	北田一夫	○	
"	新潟	五泉市教育委員会	大塚正勇	○	
"	"	新津市立金津小	相田孝助	○	
"	"	東蒲上川村立上条小	神田康雄	○	
司	"	五泉市立五泉東小	水村照	○	
提	"	五泉市立五泉南小	小田淑和	○	
記	"	"	米原裕子	○	
1	新潟	東蒲上川村教育委員会	阿部博	/	
2	"	鹿瀬町立鹿瀬小	神田和子	○	
3	"	豊実小	大竹洗二	○	
4	"	三川村立綱木小	小林富二夫	○	
5	"	中蒲村松町立村松小	大橋步	/	
6	"	五泉市立五泉東小	太田正孝	○	
7	"	五泉小	早川フミ		
8	"	"	宮川毅		
9	"	"	菊沢賢吉		
10	"	"	浅井正子		
11	"	"	波多昌枝		
12	"	中蒲横越町立横越小	清水清澄	○	
13	"	新津市立新聞小	青野尊	○	
14	"	東蒲津川町立三郷小	梨本一雄	/	



# 18回資料

## 1. 体育部の主題の意図している内容や方向について (資料1)

### < 研究主題 >

### < 体育部の主題 >

支え合い、高まり合う学習集団をつくるには、どう指導したらよいか。

効果的な見取りを成立させるには、どう指導したらよいか。

- 自分なりの考えや見方を持つ → ○ 何をやるかわかって運動する。
- 好ましいおかわり合いを持つ → ○ 個々の考えや動きを出し合う。
- おもひ合わせをがんばる → ○ 教え合いをする。

### 研究の柱

1) 効果的な見取りを成立させる条件の充実 (授業実践)

- 個やグループにめあてを持たせる工夫
- 子ども同士のかかわらせ方の工夫
- めあてを主体的・継続的に追求させる学習過程の工夫

2) 体育部における望ましい子どもの姿を明らかにする (評価)

学級での集団づくり

子ども像の具体化

自己学習と相互学習の  
つなぎ

→自己学習の成果の  
共有

自己学習  
自己学習の成果の共有  
自己学習の成果の共有  
自己学習の成果の共有  
自己学習の成果の共有

見取り(めあて)に基づいて教える

< 効果的な見取りを成立させるための条件 >

- 学習しようとする運動の全体像をつかませること。
- 技能のポイントや練習の順序・方法がわかり、学習の見通しを持たせること。
- バデーやグループで、相互によい点・問題点を出し合い、教え合い・励まし合って学習させること。
- 見取りの結果を記録し、評価・反省を通して、次のめあてや意欲を持たせること。

授業実践

2. 効果的な見取りを成立させるための条件 (資料2の1)

< 学習過程 >

1) 題材を貫くねらいを提示する。

チームのタイムを縮めよう

2) 運動の特性から全体像を示し、技能のポイントをつかませる。

○ 図解  
○ コンセプト  
○ 練習カード

- スタート(構え方・スタートダッシュ)
- 中間走(ピッチを速く、ストライドを広くした走り方)
- フニッシュ(全力で走りぬげる・胸を突き出す)
- バトンパス(構え方・スピード・かけ声・受け渡し)

3) チームの課題追求のための学習計画を立て練習する。

- リレーをやってみよう。
- ロスのないバトンパスをしよう。
- カーブを速くまわろう。
- コーナートップのやり方をおぼえよう。
- 走る距離や順番を工夫しよう。
- バトンゾーンの中で渡す場所を工夫しよう。
- 最高のタイムをだそう。

個の  
やめ  
チーム

4) 記録や走り方の評価・反省から次のめあてを持つ。

○ 練習カード

- 練習計画と記録(チームの反省・タイムからの相互評価)
- 見取りの評価(バトンパス・走り方の自己評価)

< 子どもの活動・意識 >

→ ねらいを知る (題材のめあて)

↓

→ 運動のイメージをふくらませます。  
(試技)  
全体像とのズレを  
つかむ。

- 問題点に気づく
- どこをどうすればいいか気づく
- よい点を見つける

↓

チームの課題

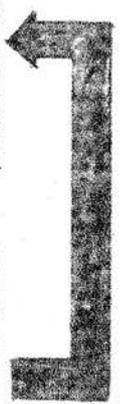
→ 見取り

- 立つ位置はどうか
- 受け渡しのタイミングはどうか
- スピードはどうか
- 手のふりや体の傾きはどうか
- ピッチやスタートはどうか
- かけ声のかけ方はどうか
- ゾーン内でバトンパスができたかな

→ 話し合い

- 声かけなかつたね
- 知るといっから走ってね
- 受け渡しのタイミングは大きすぎていたよ
- 手のふりや体の傾きは大きすぎていたよ
- 受け渡しの順番を間違えたよ
- 走るときはバトンが握りやすくなるように

→ 新しいめあて



リ-短距離走

4-ムのタイムを縮めよう

組 4-ム

※4-ムの課題

--

※練習計画と記録

月日	練習の中味	タイム	用日	練習の中味	タイム
①			⑤		
②			⑥		
③			⑦		
④			⑧		



リレ短距離走 練習カード1 6年組

ねあて・・・チームのタイムを縮めよう!

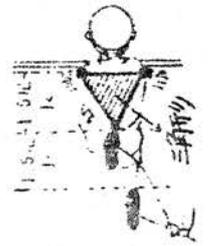
<練習のポイント>

1スタート

かまえ方



目は手よりやや前になるように



手と足の位置

〔位置について〕

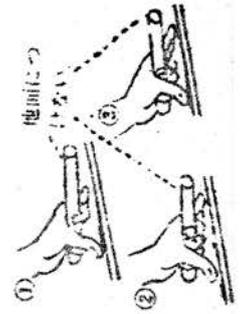


〔ヨーク〕



かたを前に出す

〔バットの持ち方〕



普通口 ②、③の持ち方

〔フック〕



体はおこない、ひしをあける

## 2. 中間走 (フォーム)

※ピッチを速く  
※ストライドを広く



チームで  
教えあって  
がんばろう!

全力で走りぬける  
脚をつき出す。



## 4 バトンパス

バトンのパス

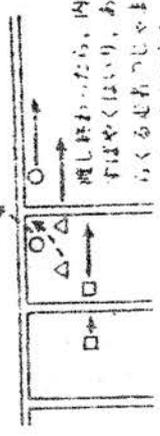
- 手のひらを上に向け  
しっかり開く。
- 相手の手をよく見て  
たたくようにする。



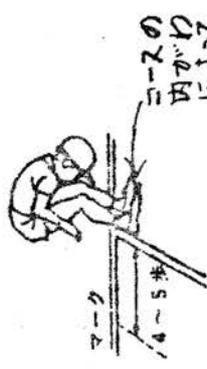
(バトンの持ち換え)  
・まだ加速のつかないうちに持ち換え  
たほうがよいので、受け取ったらす  
ぐに持ち換える。



(渡し終わった者の効果)



(第2走者からのスタートの構え)



【バトンのしかた】



【バトンゾーン】



リレー・短距離走

練習カード2

6年

組

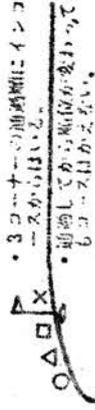
5. コーナーの走り方



- ・体を内側にかけこける。
- ・右腕を大きくふる。
- ・左腕は小さくふる。
- ・遠回りをしないでインコースを走る。

6. コーナートツプ

(コーナートツプの方法)



・インコースの速者が出でしまつてから、コースを内側に移してもよい。

タイミングよく動くウツ！ ボールを使って⑩ 動きを工夫しよう！

①



手をつかわず、足とこしを上下して、肩と足首の間をピンクがす

②



できるだけ高く「リニア」打つ



⑩



せなかあわせになり、反対方向にふりかえるとボールが100字ずかにまわる。



⑪



⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕



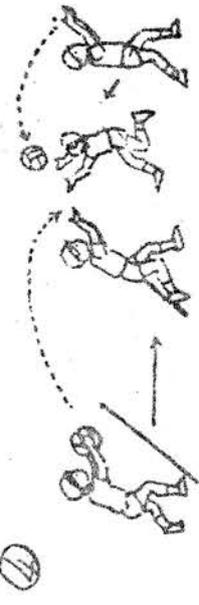
- ・なげエリ歩いてとる
- ・はげエリ歩いてとる



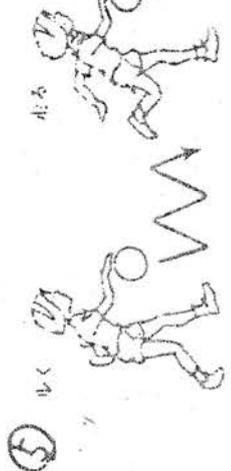
- ・軽くなげエリ歩いてとる
- ・ハッチェクを何回もやる。



- ・ボールを後首すじにのせ、静かに背中をなげエリかかとにまたらなくくしろにける。



- ・くしろまきでなげエリ前むきでとる。

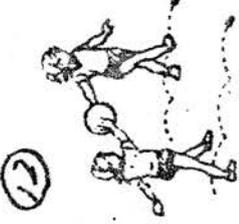


- ・まっすぐはげエリ回転
- ・反対はわりむく
- ・何回転でとるかな

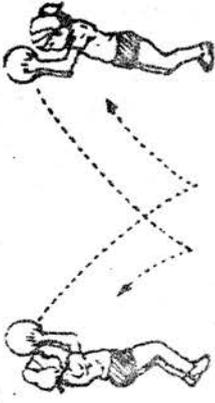


4 4

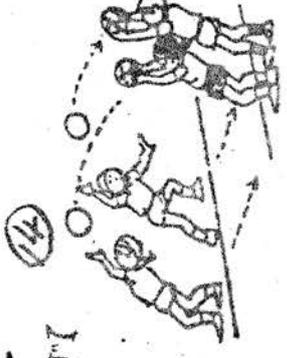
ボールを持つ人は、うしろむきになってぶつかっている相手の反対側になる。



- ・かじものはしボールをおしめて歩く(横前後)



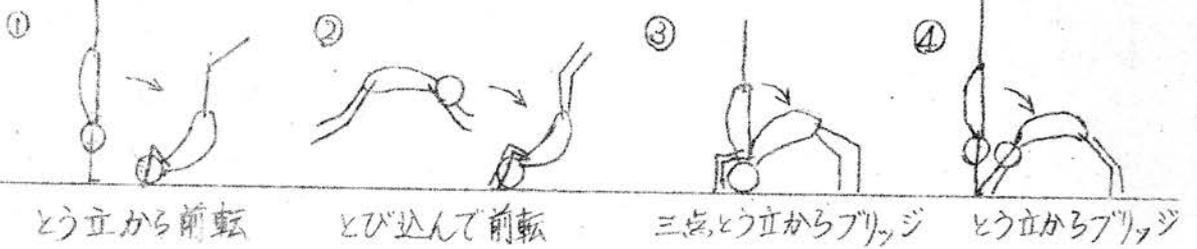
- ・いつはしボールをつか相手のボールをとる



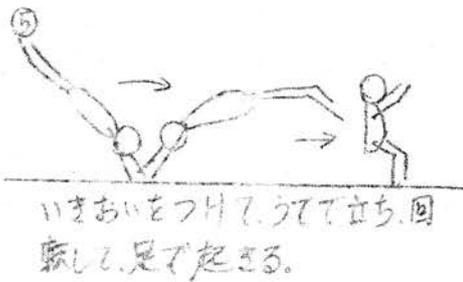
- ・つかけて何回もはげエリむかた。

自分の連続技を完成させよう

自分の工夫した技の例

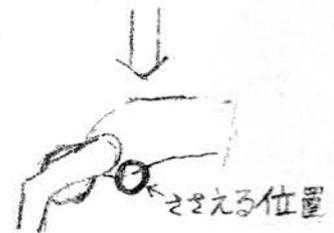


・補助のしかた

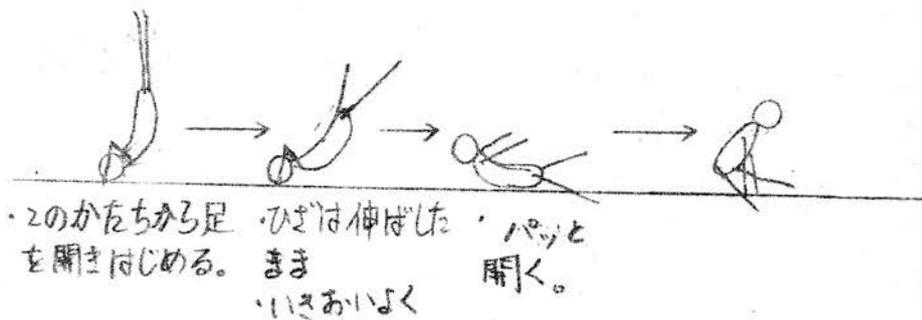


①の場合

③,④,⑤の場合



開脚前転でひざを伸ばすための練習



くり返し練習する。

# 「前まわりの連続技(マット運動)」

練習カード

5年組

——新しい技を加えた連続技をスムーズにやろう——

## 開脚前転から前転への流れ



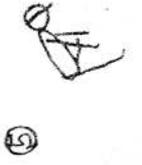
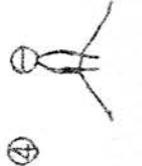
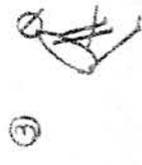
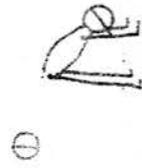
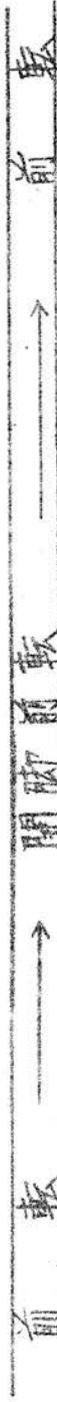
・初めの前転から起き上がり、開脚の前転に入る。

・できるだけ、ひざや足首、つま先を伸ばし、腰が顔の上にあたるころ開脚を始める。

・開脚した足を伸ばし、たまふり下ろしながら、手をついて上体を起こす。

・起き上がり、次の前転に移る。

・技能のポイント



なるべくひざを伸ばし、起きる時は、足をそろえる。ばして前回りをす。る。

手で強くつきはなして、起きる。

ひざをよく伸ばす。

できるだけ体の近くで手をついて、前転につなぐ。

・連続技がスムーズにできるために(気づいたことを書こう)

自分の工夫した技

開脚前転

前転

今日の授業を終わって

5年 組

リズム体操	① 楽しく精一杯運動することができましたか。	はい いいえ
	② 自分で、大きな動きを工夫することができましたか。	はい いいえ
	③ グループの動きをいっしょに考えて、きめることができましたか。	はい いいえ
	④ リズムに合わせて動くことができましたか。	はい いいえ
マント運動	⑤ やって見て、自分や友達のできないところがわかりました。	はい いいえ
	⑥ 自分のめあてを決めて、友達に伝えることができましたか。	はい いいえ
	⑦ 友達の運動を見てわかったことを教えてやれましたか。	はい いいえ
	⑧ 2つの技をうまくつなげることができましたか。	はい いいえ
	⑨ 準備や後始末を協力して、できましたか。	はい いいえ

昭和58年10月7日

体育の授業記録

先生の授業

NO. 1

B班 題材

B班の 意識、思考

B班のはたらきかけ

時間

まず意見を出して

- 。うさぎとび。
- 。手足を大きくふる。
- 。体をまわす。
- 。体を大きく曲げてやる。

- C.多数決でいい。
- C.簡単に決めよう。
- C.とびはねのシリーズをやるう。
- C.こうだろう
- C.あと、とびはねるのあ、た、け。

練習しよう

児童練習

- C.うさぎとびとまわるのど、ちやる。
- C.1つにまわるのどるう

うさぎとびにしよう

- T.音に合わせて
- T.どは、この次がえぼりましようね。

試技をする。

頭をつかないで前転

開脚前転

いったん手をついてまわってから  
下. うまくできなかつたところがある人

下. どうしたらできるようになるか  
班の人から補助してもらおう ) 起きねな  
道具を使つて練習する

母音の練習記録

昭和58年10月7日

先生の指導

記録者

NO. 2

B班

B児の意識、思考

B班のはたらきかけ

時間

試技をす

230

頭をつかなくて前転します

足の向きを考えてやる。

これを工夫して下さい。  
下のあたりを決めるために練習していきましょう。

ぼくのあたりは

長びくのでスムーズに

スムーズに止まらないうでやりたいです。  
ぐらつくので、きれいにできるように  
したい。

230

頭が少しいてしまうのぞ、なるべく  
つかないようにしたいです。

下、どうでしたか。

次の時間は

自分で工夫した技

開脚前転

前転

この三つをつなげてやってみましょう。

体育の授業記録

昭和58年10月7日

題材 マット運動

先生の授業  
記録着

NO.1

B 班

時間	B 児童の意識・思考	B 班のはたらきかけ
	<p>T. さようは、工夫したものに、開脚前転を つないで やりましよう。 うまぐ できないところを考えて 練習 しましよう。</p> <p>T. めあてを決めるために 練習しましよう。 C (5本) 頭をつかないで 前転します。</p>	<p>C. 前転とつりつで きまついて 起さる。 C (244) きまついて</p> <p>C. うで立て前転が できた。 C. きと足のバラコンスが めるい。</p> <p>(班の活動 - めあてをたてる。)</p> <p>C. おも上がったところから、スムーズにつな げる。 C. 足を、ひざをのばす。そして スムーズに つなげる。 C. 頭をつかない。ぶらつきの直す。</p>

C. なめてすぞて、すぐやるので、できるだけ  
ゆっくりに 試技をする。

C. (石本) 頭をつけないで 試技する。

C. ゆかた君は、もっと、ゆとりをもって、や  
って下さい。

C. 手をつかないで、前転をする。(空中転回)  
(石本さんのゆだが、ゆとりあざらないで、しま  
う。空中転回だけが、ゆとりあざらない。その  
試技に。)

D. 空中転回と、前転前転をつなげるように  
して下さい。

(石本さんの試技が、1回もなかった。よんで  
めめて「練習」がおわって、幕合の合図が  
あった。)

10/7 今日の授業の評価集計表

項目		はい	いいえ
リズム ム 体操	① 楽しく精一杯運動することができまし たか。	72	0
	② 自分で大きな動きを工夫すること ができましたか。	54	18
	③ グループの動きをいっしょに考えて 決めることができましたか。	64	8
	④ リズムに合わせて動くことが できましたか。	65	7
マッ ト	⑤ やってみて、自分や友達のできない ところがわかりましたか。	68	4
	⑥ 自分のめめてを決めて友達に伝え ることができましたか。	67	5
運 動	⑦ 友達の運動を見て、わかったことを 教えてくれましたか。	59	13
	⑧ 2つの技をうまくつなげることが できましたか。	37	35
	⑨ 準備や後始末を協力してできまし たか。	68	4